

市町村名 嘉手納町

平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-①	うたの日コンサート事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第5章-3-(2)-イ
担当部課名	産業環境課	事業実施(予定)年度	平成25~29年度	沖繩振興基本方針該当箇所
				圏域の特色を生かした産業の振興
				Ⅲ-1-(1)

事業内容 「うたの日コンサート」の経費に補助を行い、イベントを開催することで観光誘客を図る。

効果発現年度  当年度  後年度( 年度)

実施方法  直接実施  委託  補助  負担  その他( )

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	(a) 当初予算額	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000
	(b) 予算現額	8,000	8,000	8,000	8,000	7,000
	(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	▲1,000
	(d) 繰越額	-	-	-	-	-
	A. 計(b+d)	8,000	8,000	8,000	8,000	7,000
	B. 執行済額	8,000	8,000	8,000	8,000	7,000
	うち交付金充当額	6,400	6,400	6,400	6,400	5,600
	次年度繰越額	-	-	-	-	-
	執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	予算の状況の説明	コンサート会場の設営費及び撤去費の一部を補助して事業計画どおりに予算を執行した。うたの日実行委員会と協議した結果、7,000千円の補助でうたの日コンサートが開催可能であることがわかったため、1,000千円減額した。				

活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)	達成状況			
		26年度	27年度	28年度	29年度
		うたの日実行委員会への補助	目標 ( 県内の大型イベントの誘致 )	うたの日コンサート( サートの開催 ) 支援	うたの日実行委員会への補助
実績	県内の大型イベントを誘致した。	うたの日コンサートの開催を支援した。	うたの日実行委員会への補助をした	うたの日実行委員会への補助をした	
達成状況説明	会場設営等に係る経費を補助対象としており、今年度も目標を達成することができた。				

成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)	基準値(28年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)		
		平成28年度(基準値)⇒平成29年度(来場者数:6,000人)⇒6,000人	目標	( 来場者数: 6,000人 )	( 来場者数: 5,000人 )	( 来場者数: 5,000人 )	( 来場者数: 6,000人 )	( )
			実績	/	来場者数: 5,000人	来場者数: 6,000人	来場者数: 7,000人	/
平成28年度(基準値)⇒平成29年度(町特産品のPR:5品)⇒5作品以上	目標	( )	( )	( 町特産品のPR:5品 )	( 町特産品のPR:5品 )	( )		
	実績	/	/	町特産品のPR: 9品	町特産品のPR: 8作品	/		
(町商工業者の出店)4店舗⇒5店舗以上	目標	( )	( )	( 町商工業者の出店:5店舗 )	( )	( )		
	実績	/	/	町商工業者の出店:7店舗	/	/		
進捗状況説明	うたの日コンサートの来場者数7,000人を集客することができ、目標の6,000人を達成することができた。うたの日コンサート会場で、町が特産品として推奨する商品を8作品販売することができ、目標の5作品を達成できた。また、うたの日コンサート会場で、本町のガイドブックの配布および観光情報動画を放映し、観光資源のPRが行えた。							

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>(来場者数) 来場者数が目標を達成した要因としては、本町ホームページへの掲載や本町広報誌での周知など様々な広告宣伝を行い、うたの日コンサートの開催周知を十分に行えたことおよび、本町での開催が5回目であり、イベント開催場所としての認知度が向上したことが考えられる。</p> <p>当日、会場において本町の観光資源のPRを行ったが、うたの日コンサート当日のみのPRでは、開催前後の観光客の本町周遊に影響を及ぼしにくい。</p> <p>実際にコンサート来場者が本町内を観光したとしても、それを把握できない現状がある。</p>	<p>(来場者数) さらに来場者を集めるために、ほかの広告宣伝方法も検討する。</p> <p>うたの日コンサートの来場を予定している方へ事前に本町の観光資源をPRすることにより、来場予定者がうたの日コンサートの開催前後に本町内を観光する予定を計画できるようにする。</p> <p>実際に来場者が本町内を観光したことを把握するための調査方法を検討する。</p>

**今後の取り組み方針**

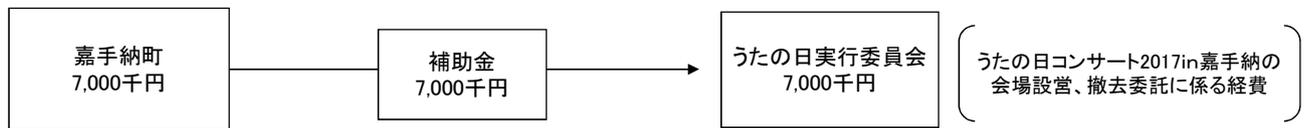
前年度同様に様々な広告宣伝を行うとともに、より効果的な広告宣伝方法を検討し、来場者の増加を目指す。

うたの日コンサートオフィシャルサイトで来場予定者に向けて本町の観光資源をPRする手段を検討し、実施することにより、来場予定者がうたの日コンサートの開催前後に本町内を観光する予定を計画できるようにする。

うたの日コンサートの誘致が本町内への観光へつながったことを確認するため、コンサート来場者にアンケート調査を行う等効果検証方法を検討する。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
7,000	7,000	5,600	1,400	0



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定方法については、過去の事業実績等を勘案し、決定したため妥当だと考える。 ○予算規模については、事業内容、事業開催条件、事業規模を確認し、補助金を支出しており適正だと考える。 ○費目・用途については額の確定時において支出等に関する書類により確認し、適正であると判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名 嘉手納町

平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-②	水釜護岸景観整備事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第5章-3-(2)-イ
担当部課名	都市建設課	事業実施(予定)年度	平成27~32年度	沖縄振興基本方針該当箇所
				圏域の特色を生かした産業の振興
				Ⅲ-1-(1)

事業内容 水釜護岸は夕日が一望でき、また近隣の海にダイビングスポットが多数あるなど、誘客施設の乏しい嘉手納町において活用が見込まれる観光資源となっていることから水釜護岸を利用する方の利便性の確保及び観光誘客を図る。

効果発現年度  当年度  後年度(34年度)

実施方法  直接実施  委託  補助  負担  その他( )

		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況					
	(a) 当初予算額	5,000		10,336		
	(b) 予算現額	4,698		7,128		
	(c) 増減額(b-a)	▲302		▲3,208		
	(d) 繰越額	-		-		
	A. 計(b+d)	4,698		7,128		
	B. 執行済額	4,698		7,128		
	うち交付金充当額	3,758		5,702		
	次年度繰越額	-		-		
	執行率(%) (B/A)	100%		100.0%		
予算の状況の説明	当初予算額では10,336千円(委託)であったが、委託積算内容の見直しを行い、入札残となった3,208千円は補正減額した。					

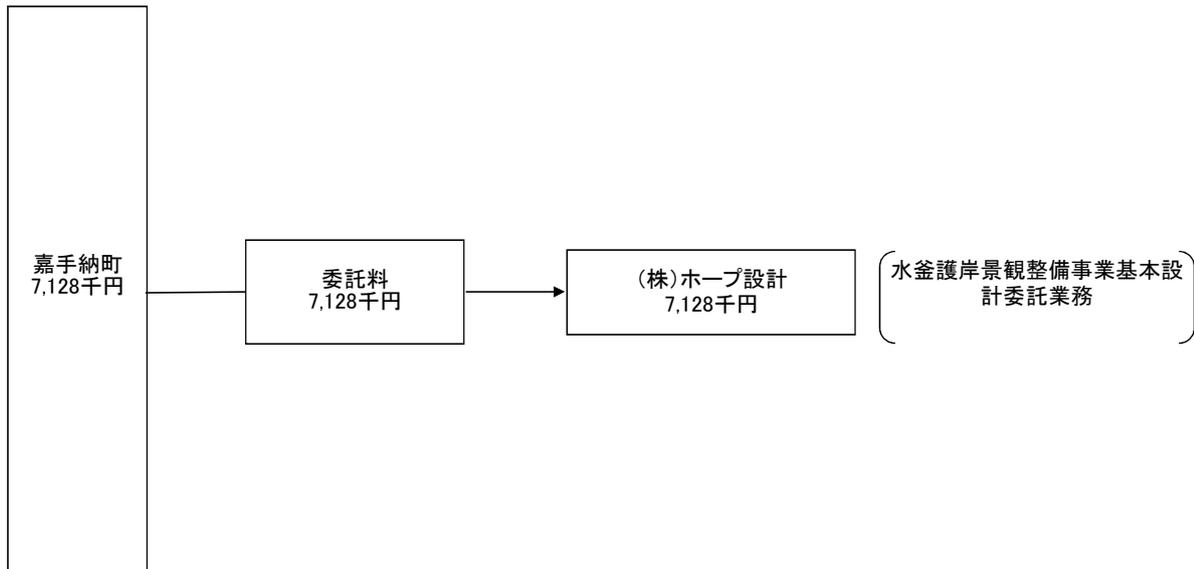
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)	達成状況			
		27年度	28年度	29年度	30年度
基本設計の実施	目標	( )	( )	( 基本設計を取りまとめる )	( )
	実績			基本設計を取りまとめた	
現地調査	目標	( 現地踏査、基本計画の作成 )	( )		( )
	実績	現地踏査、基本計画の作成			
ワークショップの開催(2回)	目標	( ワークショップを2回予定 )	( )	( )	( )
	実績	ワークショップを2回実施した			
達成状況説明	基本設計を行うにあたり、住民説明会を2回開催し、事業内容を地域住民へ周知するようにした。また、護岸管理者と継続的な協議を行い、事業の規模等を決定した。				

成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)	基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(34年度)
			基本設計の完了	目標	( )	( )
	実績			完了		
【H34成果目標】 ・利用者の利便性が確保されているか(80%以上)を含め、来訪者へのアンケートにより当該整備事業のあり方を検証する。	目標	( )	( )	( )	( )	( 80%以上 )
	実績					
【H34成果目標】 ・水釜護岸へのイベント来訪者数 年間1.1万人以上	目標	( )	( )	( )	( )	( 1.1万人以上 )
	実績					
進捗状況説明	住民への説明会を2回開催し、住民合意形成を図ったうえで基本設計(測量業務、公園業務)を完了した。今後、平成30年度に実施設計を完了し、平成31年度からの工事着手に向け事業計画を推進していく。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	平成29年度の基本設計において、護岸に構造物を設置するために、護岸管理者である沖縄県との占用協議に時間を要してしまった。また、住民コンセンサスの部分で様々な意見が住民の皆様からあり、集約に苦慮した。	平成30年度に行う実施設計の作成にあたっては、地域住民及び護岸管理者の意見を反映させた実施設計を作成する必要がある。
<b>今後の取り組み方針</b>		
実施設計の作成にあたっては、早期に地域住民及び護岸管理者との調整を行うことで、関係者の意見を反映させた実施設計を作成し、確実に事業を進める。		

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
7,128	7,128	5,702	1,426	0



資金の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は指名競争入札により選定しており、妥当であったと考えている。
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算額10,336千円のうち7,128千円の執行となり、今後、実施予定の予算作成時には、細部まで検討した内容での予算計上が必要である。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名 嘉手納町

平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

Table with 4 columns: 事業番号・事業名 (1-3, 比謝川緑地広場整備事業), 沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所 (第5章-3-(2)-イ), 担当部課名 (都市建設課), 事業実施(予定)年度 (平成24~32年度), 沖縄振興基本方針該当箇所 (III-1-(1))

事業内容: 本事業では、体験型・滞在型の観光振興の強化を図るため、現在、エコツアーを開催している比謝川において観光客や町民利用者の利便性を高めるため、受入基盤の整備を行う。

効果発現年度:  当年度  後年度(年度)

実施方法:  直接実施  委託  補助  負担  その他( )

Table with 7 columns: 26年度, 27年度, 28年度, 29年度, 30年度. Rows include: 予算額・執行額 (単位:千円), 予算の状況 (a-d), A. 計(b+d), B. 執行済額, うち交付金充当額, 次年度繰越額, 執行率(%) (B/A), 予算の状況の説明

Table with 5 columns: H29活動目標(指標), 26年度, 27年度, 28年度, 29年度. Rows include: 達成状況, 実施設計の実施 (目標, 実績), 活動目標(指標)及び達成状況, 達成状況説明

Table with 7 columns: H29成果目標(指標), 基準値(年度), 27年度, 28年度, 29年度, 目標値(年度). Rows include: 成果目標(指標)及び進捗状況 (実施設計の完了), 進捗状況説明



市町村名 嘉手納町

平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-④	屋良東部地区地域振興施設機能拡充事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ
担当部課名	産業環境課	事業実施(予定)年度	平成25~30年度	観光客の受入体制の整備
			沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)

事業内容 観光客利用者の増加を図るため、地域振興施設の機能拡充(展望台広場の拡張及び飲食物販施設増築の実施設計、駐車場整備等)を行う。

効果発現年度  当年度  後年度(34年度)

実施方法  直接実施  委託  補助  負担  その他 ( )

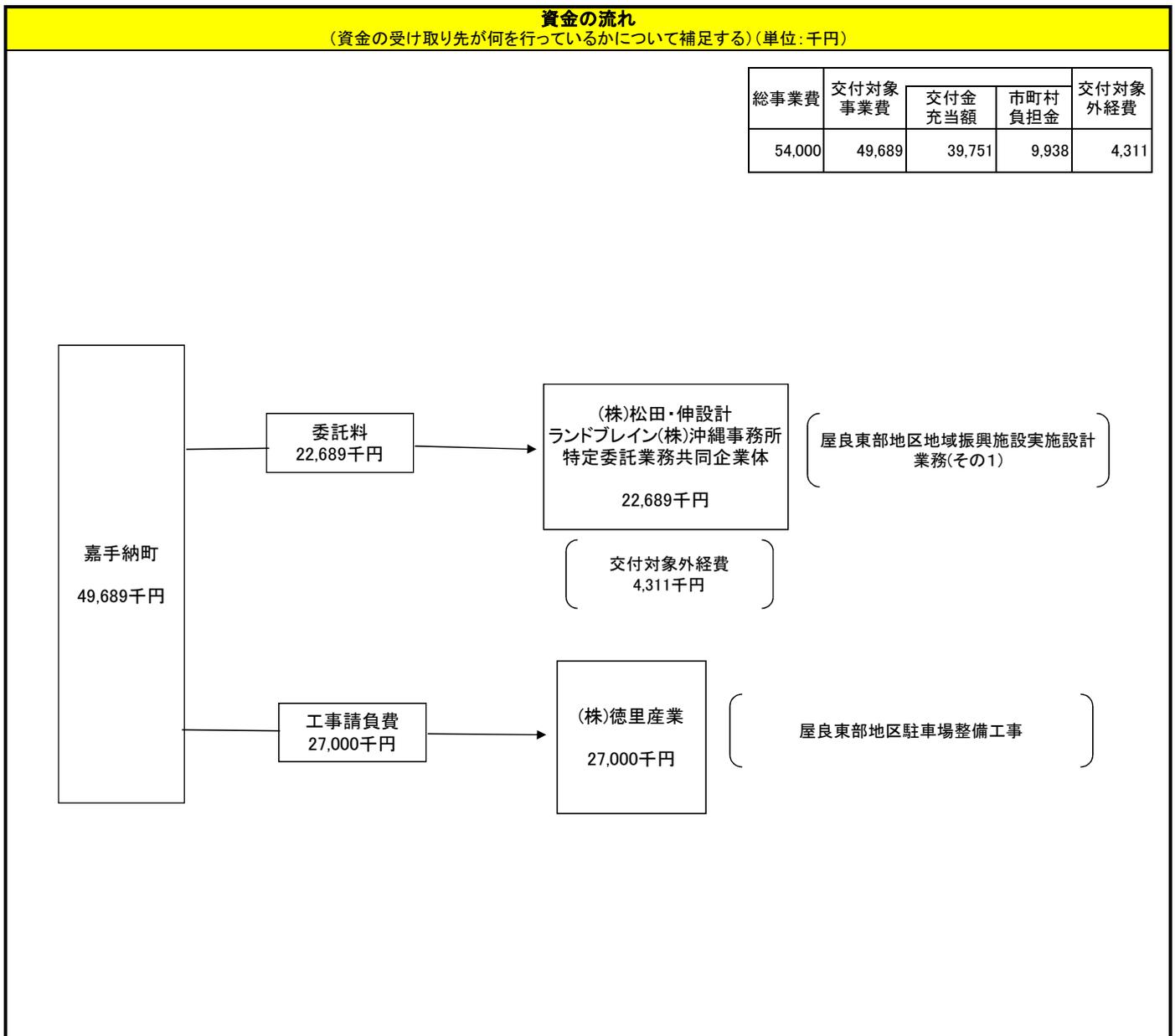
		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況					
	(a) 当初予算額	221,660	8,370	22,032	2,764	79,201
	(b) 予算現額	158,665	149,517	22,032	2,689	49,954
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 62,995	141,147	0	▲ 75	▲ 29,247
	(d) 繰越額	-	-	-	-	-
	A. 計 (b+d)	158,665	149,517	22,032	2,689	49,954
	B. 執行済額	158,663	149,138	22,032	2,689	49,689
	うち交付金充当額	126,928	119,310	17,625	2,151	39,751
	次年度繰越額	-	-	-	-	-
	執行率 (%) (B/A)	100.0%	99.7%	100.0%	100.0%	99.5%
予算の状況の説明		関係団体等との合意形成に時間を要し、一部施設(展望台広場)のみの実施設計となったため、4,311千円を対象外経費、3,199千円を町単独経費として付帯工事を行い、3月補正で21,737千円を減額している。当初予算額に対象外経費と町単独経費が含まれているため、増減額が▲29,247千円になっている。また、265千円が不用額になっている。				

活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)	達成状況			
		26年度	27年度	28年度	29年度
		実施設計の策定	目標 ( )	( )	( )
	実績			実施設計(その1)の完了	
駐車場整備工事	目標	( )	( )	( )	( 駐車場整備工事 )
	実績				駐車場整備の完了
達成状況説明	<b>【実施設計の策定】</b> ・飲食物販施設等の与条件整理と展望台広場の実施設計を完了した。 <b>【駐車場整備工事】</b> ・H28年度に実施設計を終えた駐車場整備工事が完了した。				

成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)	基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(34年度)		
		実施設計の完了	目標	( )	( )	( )	( 実施設計の策定 )	( )
			実績				実施設計(その1)の完了	
		駐車場整備の完了	目標	( )	( )	( )	( 駐車場整備工事 )	( )
実績					駐車場整備の完了			
供用開始 来場者数: 74.9万人	目標	( )	( )	( )	( )	( 供用開始来場者数: 74.9万 )		
	実績							

進捗状況説明 **【実施設計の完了】**  
 ・飲食物販施設等の与条件整理と展望台広場の実施設計が完了した。  
**【駐車場整備工事の完了】**  
 ・身障者用駐車区画を2台、小型乗用車用区画68台で計70台駐車可能となる駐車場整備が完了した。

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	駐車場工事においては、事前に関係者へのスケジュール説明を行っていたが、関係者等の要望からスケジュール管理に苦慮した。	事前に地域へ事業スケジュールや、進捗状況の説明を定期的に行い、理解を得る必要がある。
	<b>今後の取り組み方針</b>	
事業説明会を定期的に行い、地域住民や関係団体の理解を得ながら円滑な事業推進を図る。		



資金の用途の 流れ、費目・ 点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定方法については、事業の規模や実績等を勘案し、指名審査委員会にて決定したため妥当だと考える。 ○予算規模については2社以上から見積もりを徴収し、予算を積算しており妥当だと考える。 ○費目、用途については、精算段階で内容を検証しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名 嘉手納町

平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-⑤	嘉手納町観光客受入体制整備事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ア	
			国際的な沖縄観光ブランドの確立		
担当部課名	産業環境課	事業実施(予定)年度	平成26~29年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)

事業内容 嘉手納町観光振興基本計画に基づき、観光振興の基盤となる観光ガイドの確保・育成を図るため、嘉手納町観光ガイド育成講座を実施する。

効果発現年度  当年度  後年度(30年度)

実施方法  直接実施  委託  補助  負担  その他( )

		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況					
	(a) 当初予算額	2,402	2,117	3,646	3,618	
	(b) 予算現額	2,402	1,968	3,172	3,541	
	(c) 増減額(b-a)	0	▲149	▲474	▲77	
	(d) 繰越額	-	-	-	-	
	A. 計(b+d)	2,402	1,968	3,172	3,541	
	B. 執行済額	2,133	1,968	3,172	2,997	
	うち交付金充当額	1,706	1,574	2,537	2,398	
	次年度繰越額	-	-	-	-	
	執行率(%) (B/A)	88.8%	100.0%	100.0%	84.6%	
予算の状況の説明	受講者数の減少による変更契約により、544千円が不用額となった。					

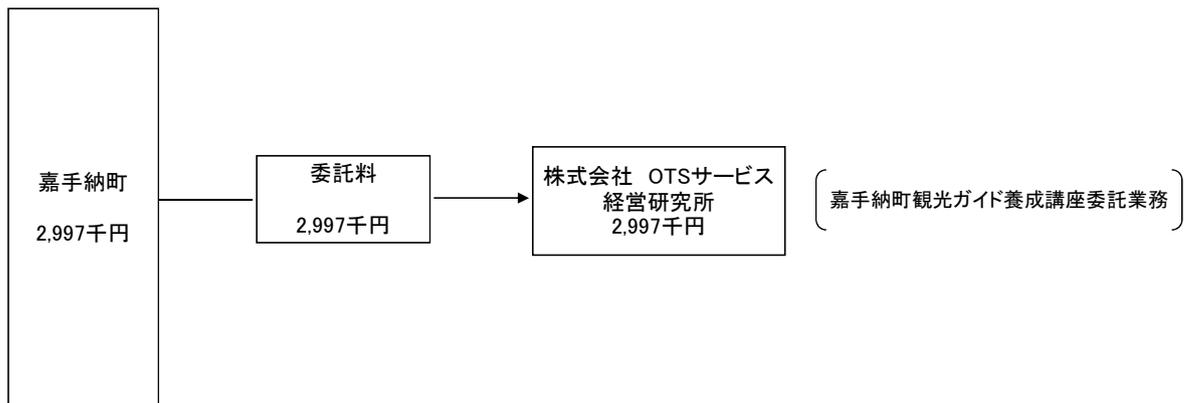
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)	達成状況			
		26年度	27年度	28年度	29年度
研修講座、実地研修の実施(17回)	目標	( 研修講座 )	( )	( 実地研修の実施:5回 )	( 実地研修の実施(17回) )
	実績	研修講座の実施		実地研修の実施:5回	研修講座、実地研修の実施:18回
先行事例視察(2回)	目標	( 先行事例視察 )	( )	( 先行事例視察:2回 )	( 先行事例視察:2回 )
	実績	先行事例視察の実施		先行事例視察:2回	先行事例視察:2回
観光メニュー(1コース)の構築	目標	( )	( )	( )	( 観光メニュー(1コース)の構築 )
	実績				観光メニュー(1コース)の構築
達成状況説明	<p>沖縄と嘉手納町の歴史や産業の知識、ガイド技術等を取得するための研修講座を15回実施し、受講者の受講状況に合わせて補講等も行った。また、講座終了後にはアンケートを実施した。アンケート結果をもとに受講者の講座内容理解度を把握し、講座運営に反映させた。実地研修については、3回実施した。</p> <p>先行事例視察では那覇市と宜野座村の県内2か所の先進地を視察し、実際の観光ガイドプログラムを体験することでより実践的な研修内容となり、ガイド養成に向けた効果的な研修を行うことができた。</p> <p>観光メニューとしてまち歩きのコースを新たに1コース構築させ、今後のメニュー開発につながる研修となった。</p>				

成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)	基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(30年度)
		観光ガイドの育成人数:10名	( )	( )	観光ガイドの育成人数:10名	観光ガイドの育成人数:10名
				観光ガイドの育成人数:7名	観光ガイドの育成人数:7名	
	【H30成果目標】ガイド利用者への満足度調査を実施し、ガイドの案内に満足したか(80%以上)を含め、利用者へのアンケートにより本事業のあり方を検証する。	目標	( )	( )	( )	( )
進捗状況説明	<p>観光ガイドの養成人数を10名と目標設定し、養成講座の募集を行った。平成29年度は夜間講座に変更し受講者の増加を図ったが、観光ガイド養成講座の受講者数が9名であった。ガイドの認定基準として講座出席率70%以上を最低条件としていたことから、最終的な認定されたガイドは7名となった。</p>					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	観光ガイド育成講座の実施を夜間にする事で、受講者の増加を図ったが、講座があまり認知されておらず計画どおりの受講者数が確保できない結果となった。	今後、観光ガイド養成講座を実施する際には、受講者を増加させるため、講座の周知方法を改善する必要がある。
今後の取り組み方針		
他の市町村では、複数の市町村でガイドを掛け持ちしている方もいることから、県内各市町村の観光協会や観光ガイドに対しても周知行い、ガイドの確保に取り組む。		

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
2,997	2,997	2,398	599	0



資金の流 れ、費 目・ 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は随意契約により決定したが、公募プロポーザルで選定しており、妥当であったと考えている。 ○予算規模については3社から見積もりを徴収し、比較検証したため適正な規模と考える。 ○費目・用途については額の確定時において支出等に関する書類により確認し、適正であると判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名 嘉手納町

平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-⑥	かでな文化センター機能向上事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第5章-3-(2)-イ
担当部課名	教育委員会 社会教育課	事業実施(予定)年度	平成24~29年度	沖縄振興基本方針該当箇所
				圏域の特色を生かした産業の振興
				Ⅲ-1-(1)

事業内容 町民、県民が質の高い文化芸術公演に触れる機会や文化芸術活動を行う場の確保を図るため、かでな文化センター施設の機能強化を行う。本年度は映像設備(プロジェクター、カメラ、スクリーン、操作卓)を整備する。

効果発現年度  当年度  後年度(30年度)

実施方法  直接実施  委託  補助  負担  その他( )

		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	(a) 当初予算額	24,106	156,158		30,746	
	(b) 予算現額	29,074	173,988		27,767	
	(c) 増減額(b-a)	4,968	17,830		▲ 2,979	
	(d) 繰越額	-	-		-	
	A. 計(b+d)	29,074	173,988		27,767	
	B. 執行済額	27,628	173,988		27,766	
	うち交付金充当額	22,102	139,190		22,213	
	次年度繰越額	-	-		-	
	執行率(%) (B/A)	95.0%	100.0%		100.0%	
	予算の状況の説明	不用額の2,979千円については、委託及び工事請負の入札残によるものである。事業内容については、当初の予定通り執行している。不用額2,979千円は、3月補正にて減額している。				

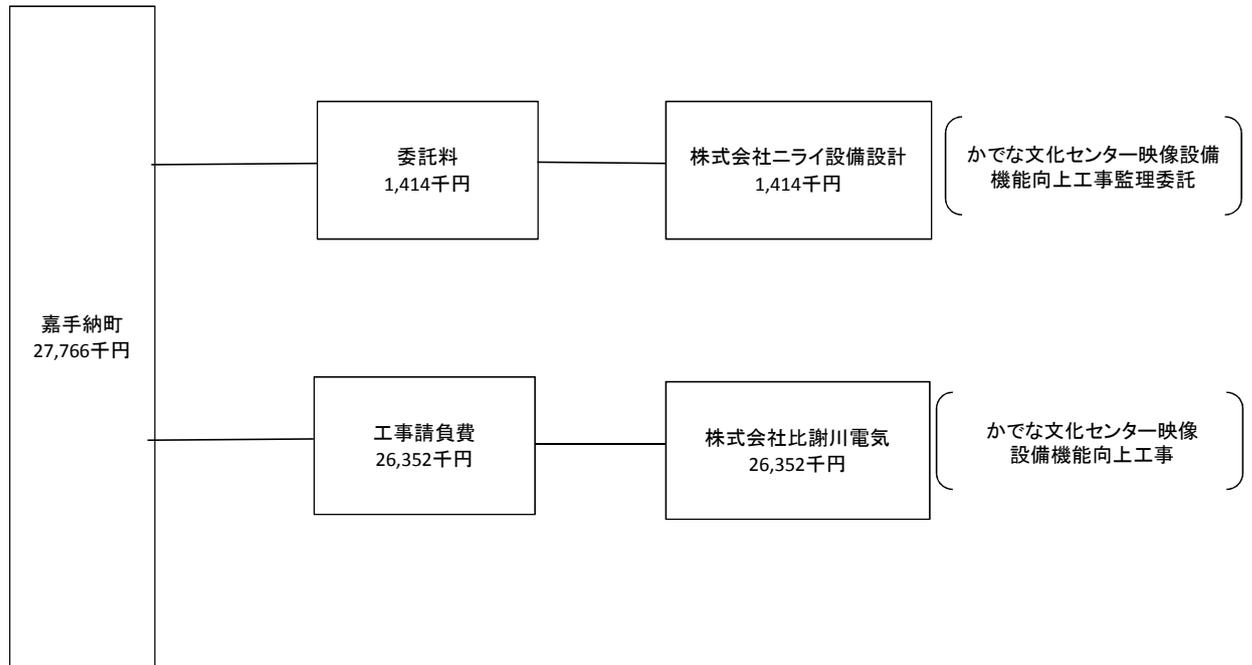
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)	達成状況			
		29年度	30年度	31年度	32年度
		映像設備の設置工事の施工	目標 (設置工事の施工)	( )	( )
	実績	設置工事の施工完了			
	目標	( )	( )	( )	( )
	実績				
達成状況説明	かでな文化センター映像設備の機能向上を図るため、プロジェクターを2台、カメラを2台、スクリーン2台に設置した。また、設置した設備を1箇所ですべて操作を可能にするため、操作卓を舞台袖に設置した。				

成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)	基準値(年度)	29年度	30年度	31年度	目標値(30年度)
		映像設備をかでの文化センター内に設置完了	目標 ( )	(設置工事の竣工)	( )	( )
		実績	設置工事の竣工			
	【H30成果目標】 かでな文化センターの利用者数	目標 ( )	( )	( )	( )	(46,000人以上)
		実績				
進捗状況説明	かでな文化センターに係る映像設備の機能向上工事を施工し、プロジェクター2台、カメラ2台、スクリーン2台、操作卓を設置完了した。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・かでな文化センターの公演・イベント等を充実させることで観光誘客につなげるために映像設備機能向上を行ったところであるが、機能が向上したことを公演等を主催する団体等に積極的にPRする必要がある。</p>	<p>・かでな文化センターに設置した設備の情報を公演等を主催する団体等に周知し、施設の利用を促進する必要がある。</p>
今後の取り組み方針		
<p>・かでな文化センターの施設情報並びに今回設置した設備の情報をHP等を活用して広く発信し、周知を図るとともに、施設、設備の利用促進を図る。</p>		

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
27,766	27,766	22,213	5,553	0



資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・工事請負業者、委託事業者については、指名競争入札で実績等を考慮し選定しており、妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・予算規模については、執行率は100%であり、予定していた事業内容を実施しているため、適正な規模であったと考える。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	・費目・用途については、精算段階で検査を実施しており、かでな文化センター映像設備機能向上の目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名 嘉手納町

平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-⑦	嘉手納町観光振興推進事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ
担当部課名	産業環境課	事業実施(予定)年度	平成29年度	観光客の受入体制の整備
			沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)

事業内容 本町の観光現状等を踏まえた観光振興の課題を明らかにし、今後の観光振興の方向性を示すため、嘉手納町観光振興基本計画の策定を行い、観光誘客を図る。

効果発現年度  当年度  後年度(36年度)

実施方法  直接実施  委託  補助  負担  その他 ( )

		29年度	30年度	31年度	32年度	33年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況					
	(a) 当初予算額	6,901				
	(b) 予算現額	6,891				
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 10				
	(d) 繰越額	—				
	A. 計 (b+d)	6,891				
	B. 執行済額	6,890				
	うち交付金充当額	5,512				
	次年度繰越額	—				
	執行率 (%) (B/A)	100.0%				
予算の状況の説明	事業計画どおりに執行を行った。 なお、3月補正にて減額しており、1千円が不用額となっている。					

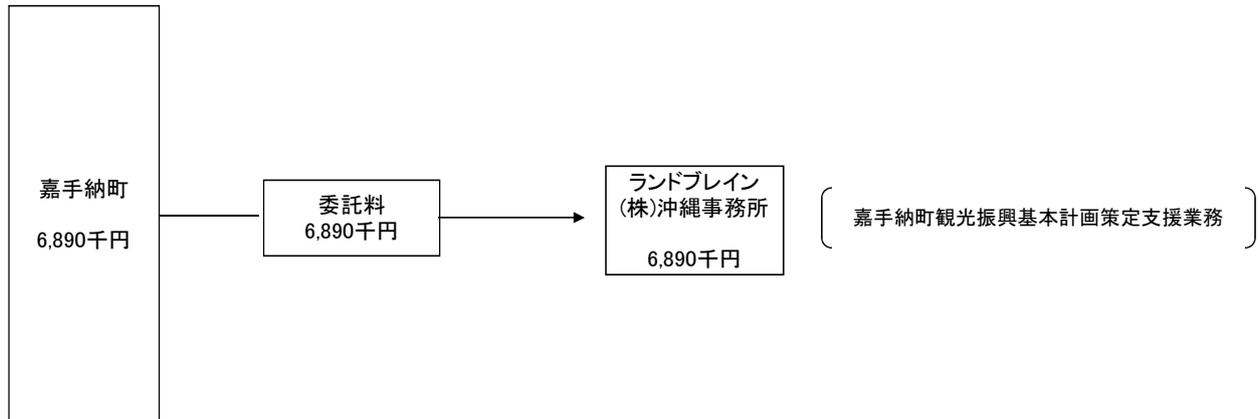
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)	達成状況				
		29年度	30年度	31年度	32年度	
	観光振興計画の策定	目標	( 観光振興計画の策定 )	( )	( )	( )
		実績	観光振興計画の策定			
	達成状況説明	目標	( )	( )	( )	( )
		実績				
本町の観光実態を調査し、明らかになった観光振興の課題を解決するため、第2次嘉手納町観光振興基本計画を策定した。						

成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)	基準値(年度)	29年度	30年度	31年度	目標値(30年度)	
			観光振興基本計画の策定完了	( 策定完了 )	( )	( )	( )
	【H30成果目標】 嘉手納町観光振興基本計画に基づき、観光誘客を目的とした事業の実施につなげる。 (参考:H36町来訪者数 100万人)	目標	( )	( )	( )	( )	( 実施につなげる )
		実績					
進捗状況説明 ・関係部署と有識者からなる検討委員会の開催及び町内観光関連事業所へのヒアリングを行い観光実態を調査した結果を踏まえ、観光振興の課題解決のため12の施策を掲げた第2次嘉手納町観光振興基本計画を策定した。							

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	観光振興基本計画の策定は完了したが、本町の観光振興の課題として、基本計画に沿って観光地域づくりを推進する観光運営組織がないことが大きな課題となっている。	嘉手納町が一体となった観光地域づくりの舵取り役を担う組織の設立が必要であるため、従来の観光事業所のみが参画する観光協会ではなく、多様な参画者からなる組織づくりが必要である。また、自走できる運営組織を目指す必要がある。
	<b>今後の取り組み方針</b>	
従来の観光事業所のみが参画する観光協会ではなく、多様な参画者からなる組織づくりをし、嘉手納町が一体となった観光地域づくりの舵取り役を担う組織の設立を推進する。また、自立できる運営組織となるよう収益事業の創出に取り組む。		

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
6,890	6,890	5,512	1,378	0



資金の 用途の 流れ、 費目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定方法については、事業の規模や実績等を勘案し、指名審査委員会にて決定したため妥当だと考える。 ○予算規模については2社以上から見積もりを徴収し、予算を積算しており妥当だと考える。 ○費目、使途については、精算段階で内容を検証しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名 嘉手納町

平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2-①	学習支援員配置事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア
担当部課名	教育指導課	事業実施(予定)年度	平成24~33年度	沖繩振興基本方針該当箇所
				確かな学力を身につける教育の推進
				Ⅲ-3-(1)

事業内容 児童生徒の学力向上を図るのため、教師と連携を図りながらチームティーチング、習熟度別授業を行うとともに、夏休み中に個別指導及び放課後の補習授業を行う学習支援員を配置する。

効果発現年度  当年度  後年度( 年度)

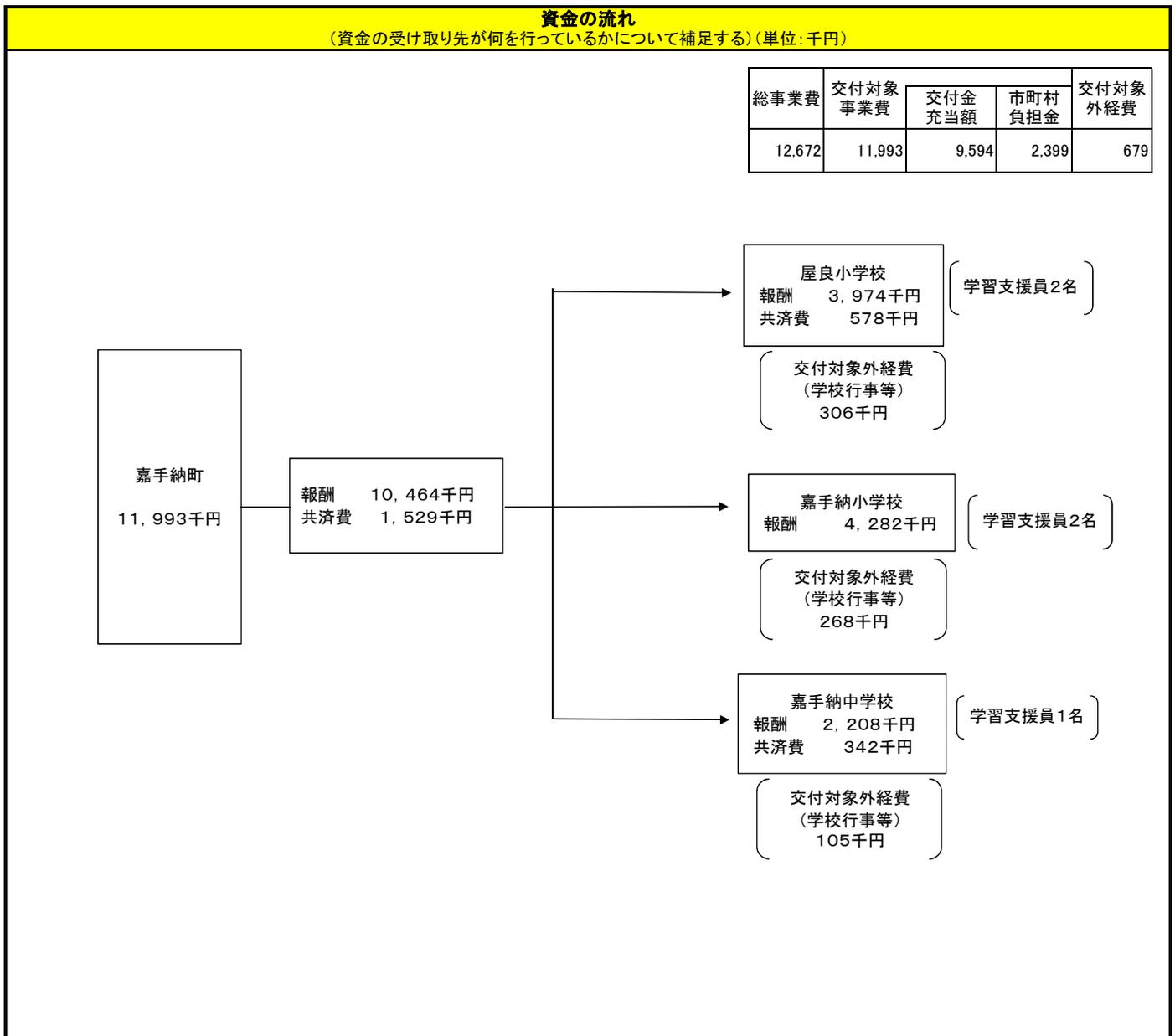
実施方法  直接実施  委託  補助  負担  その他( )

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況					
	(a) 当初予算額	10,544	10,552	13,212	13,186	13,201
	(b) 予算現額	10,416	10,552	12,986	12,657	12,082
	(c) 増減額(b-a)	▲128	0	▲226	▲529	▲1,119
	(d) 繰越額	-	-	-	-	-
	A. 計(b+d)	10,416	10,552	12,986	12,657	12,082
	B. 執行済額	10,416	10,277	12,986	12,657	11,993
	うち交付金充当額	8,000	8,221	10,389	10,125	9,594
	次年度繰越額	-	-	-	-	-
	執行率(%) (B/A)	100.0%	97.4%	100.0%	100.0%	99.3%
予算の状況の説明	学習支援員を本町小学校に4名、中学校に1名を配置し、小学校は、4名のうち1名2ヵ月未雇用、うち3名は報酬と社会保険料をそれぞれ12ヶ月分執行しているが欠勤があった。中学校においては、12ヵ月分の雇用で報酬と社会保険料を執行した。小学校の未雇用分に関しては1,119千円の補正減を行い、不用額89千円については欠勤による報酬の残額分と社会保険料の変動によるものである。					

活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)	達成状況				
		26年度	27年度	28年度	29年度	
	学習支援員配置数 小学校:4人 中学校:1人	目標	( 小学校3人 中学校1人 )	( 小学校4人 中学校1人 )	( 小学校4人 中学校1人 )	( 小学校4人 中学校1人 )
		実績	小学校3人 中学校1人	小学校4人 中学校1人	小学校4人 中学校1人	小学校4人 中学校1人
	目標	( )	( )	( )	( )	
	実績					
達成状況説明	<p>○小学校においては、5年生を対象に各学級を学習内容の習熟の程度に応じた学級編制(2分割)を行い、学習支援員は少人数グループの算数指導を行った。また、放課後は、学習支援員は学級担任と協力し、補習指導を行った。</p> <p>○中学校においては、2年生で学習内容の定着が十分でない生徒を対象に学級内でチームティーチングを通じて、学習支援を行った。</p>					

成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)	基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(30年度)	
			目標	( 県平均以上 )	( 県平均以上 )	( 県平均以上 )	( )
			実績	小3国語×算数× 小5国語×算数× 中2国語×数学×	小5国語○算数× 中2国語×数学×	小5国語×算数× 中2国語×数学×	( )
進捗状況説明	<p>○沖縄県到達度調査の県平均と比較すると、小学校では、国語、算数どちらも県平均を上回る事ができなかった。中学校でも国語、数学どちらも県平均を下回っており、中学校数学においては目標の-3%以内を達成する事ができなかった。</p> <p>○平成29年度 沖縄県到達度調査の結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小学校・・・小5国語:県平均66.6%、本町61.7%、小5算数:県平均55.1%、本町45.8%</li> <li>中学校・・・中2国語:県平均60.5%、本町56.7%、中2数学:県平均45.4%、本町33.7%</li> </ul>						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>○学習支援員は、学習内容の定着が十分でない児童生徒に対し学習支援を行ったが、今年度は、対象となる児童生徒の人数が多く、チームティーチングでの個別指導の対応を試みたが、児童生徒一人ひとりに十分に対応するための十分な時間の確保が難しかった。</p> <p>○児童生徒一人ひとりの当該学年まで学習内容の定着が十分ではなく、指導した内容の理解が不十分であった。</p>	<p>○学習支援員が、児童生徒一人ひとりに十分に対応するための効果的な支援方法の確立のために、個別指導で対応する人数や機会の調整、十分な時間の確保の工夫が必要である。</p> <p>○学習支援員が、児童生徒一人ひとりの当該学年までの学習内容の定着状況を把握する必要がある。</p>
今後の取り組み方針		
<p>○授業のなかでの個別指導の時間の確保を進めながら、単元の後半に補習の時間の設定するなど個別指導の時間をつくる工夫をする。また、授業の個別指導や補習指導において、繰り返し指導やミニテストの実施等により、学習内容の定着を図る。</p> <p>○当該学年までの既習事項や学習内容の定着状況を把握し、十分でない児童生徒に対して、学び直しを行うことで、全体の既習事項の定着度をそろえる。</p>		



資金の 用途の 流れ、 費目・ 検 査 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支援員は嘉手納町嘱託員設置要綱に基づき採用した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算は嘉手納町特別職の職員の給与並びに旅費及び費用弁償に関する条例施行規則に基づき計上されており、適正であった。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途については、報酬と共済費のみであり、支援員配置事業に必要なものに限定されている。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名 嘉手納町

平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2-②	英語力強化事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア
担当部課名	嘉手納町教育委員会 教育指導課	事業実施(予定)年度	平成24~33年度	国際社会、情報社会に対応した教育の推進
			沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(1)

事業内容 小学校では英語に親しむ環境をつくり、中学校は実用的な英語を学ぶため、ネイティブスピーカーの英会話指導員(ALT)や英語指導員(中学校のみ)を配置し、児童生徒の英語への興味・関心を高めるとともに、英語学力の向上を図る。

効果発現年度  当年度  後年度( 年度)

実施方法  直接実施  委託  補助  負担  その他( )

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	(a) 当初予算額	13,741	16,014	15,881	17,876	17,865
	(b) 予算現額	12,775	16,014	16,132	16,908	17,136
	(c) 増減額(b-a)	▲ 966	0	251	▲ 968	▲ 729
	(d) 繰越額	-	-	-	-	-
	A. 計(b+d)	12,775	16,014	16,132	16,908	17,136
	B. 執行済額	12,775	15,720	16,132	16,908	16,489
	うち交付金充当額	9,665	12,576	12,906	13,526	13,191
	次年度繰越額	-	-	-	-	-
	執行率(%) (B/A)	100.0%	98.2%	100.0%	100.0%	96.2%
	予算の状況の説明	嘱託員として英会話指導員5名、英語指導員1名を雇用した。補正予算の減額(729千円)は、当初見込日数と実績日数の差額である。欠勤および英語指導員1名の2月退職による未雇用のため不用額が647千円あった。				

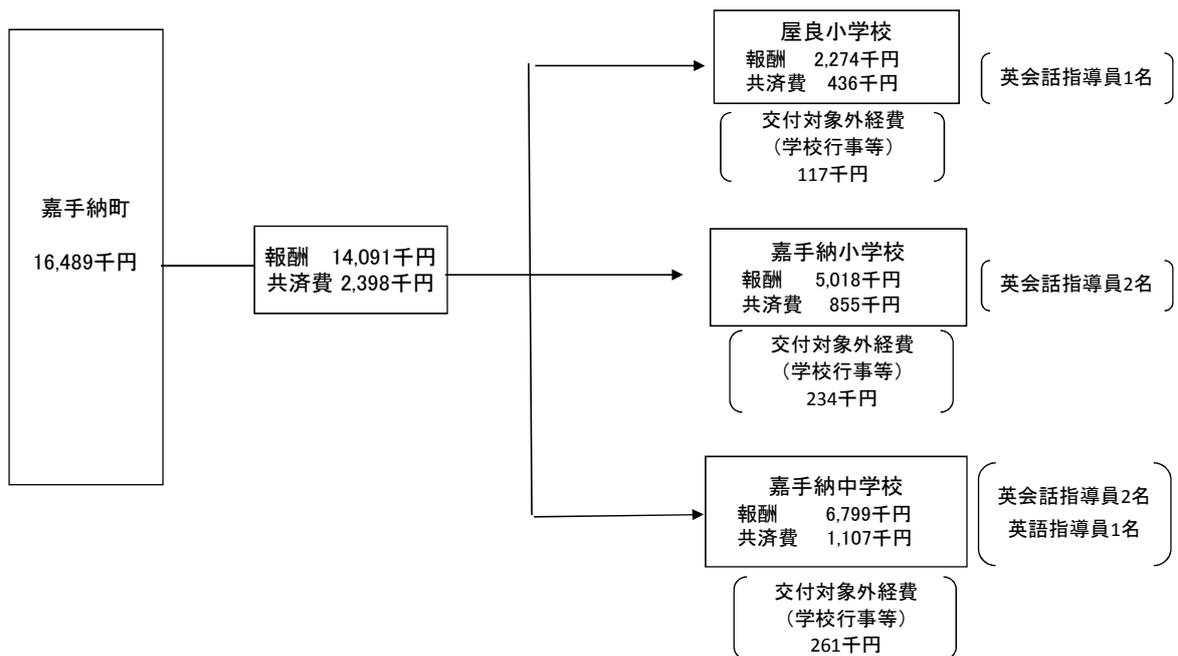
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)	達成状況			
		26年度	27年度	28年度	29年度
英会話指導員配置数 小学校:3人、中学校:2人	目標	( 小学校3人 中学校2人 )	( 小学校3人 中学校2人 )	( 小学校3人 中学校2人 )	( 小学校3人 中学校2人 )
	実績	小学校3人 中学校2人	小学校3人 中学校2人	小学校3人 中学校2人	小学校3人 中学校2人
英語指導員配置数 中学校:1人	目標	( 中学校1人 )	( 中学校1人 )	( 中学校1人 )	( 中学校1人 )
	実績	中学校1人	中学校1人	中学校1人	中学校1人
達成状況説明	英会話指導員を小学校3名、中学校2名、英語指導員1名を配置。小学1年生から中学3年生まで週1時間を英会話の時間として確保し、学級担任とALTとで授業を展開している。小学校は、授業で日常的に使う言葉で英語に親しむための「ターゲットフレーズ」を設定して、学年段階で系統性のある指導が行えるようにしている。小学生時から「英語に親しむ」事ができ英会話への導入部分において、一定の成果を上げている。中学校では、英語担当教師と連携し、語彙力を増やすことができた。				

成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)	基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(30年度)
			(小学校) アンケートで「英会話が楽しい」と答えた児童の割合80%	( )	( 41.57% )	( 80% )
(中学校) 英語検定3級以上の合格者	目標	( )	( 27% )	( 50名 )	( 50名 )	( 45名 )
	実績		43.50%	35名	31名	
【H30成果目標】 県学力到達度調査において、県と本町との平均正答率の差 -2.8ポイント以上	目標	( )	( )	( )	( )	( -2.8ポイント以上 )
	実績					
進捗状況説明	小学校においては、英会話に慣れ親しむための授業が定着しており、児童のアンケートで「英会話の授業が楽しいですか」の項目で、84%児童が楽しいと答え、英会話を身近に感じ、微増ながら英会話を学ぶ意欲の向上が見られた。中学校においては、目標を3級以上の年間合格者を50名としたが、3級以上の合格者31名と目標の数値に達することができなかった。					

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	①小学校では、日常生活でも英会話を活用する機会が増加すれば、英語に対して興味・関心がより高められる。 ②中学校では、英検受験日の近くに学校行事や部活動の大会があったことなどにより、受験者数が減少したため、合格者の減少になっている。 ③中学校では、英検3級取得者が増加し、次のレベルである準2級を受験する意欲がある生徒も多いが、なかなか合格できていない。	①小学校では、英会話を楽しめるような授業実践を行ない、日常的に使用するフレーズに関しては、繰り返し練習し定着をはかる。 ②英検受験への呼びかけを継続し、学校での英検受験日と学校行事との日程の調整や計画的な事前告知をおこなうことで、受験者数を増加を目指す。 ③英語指導員や英会話指導員(ALT)を活用し、放課後の時間に英検受験検対策を行う。
	今後の取り組み方針	
①児童が日常的に使う言葉で英語に親しむために設定した「ターゲットフレーズ」の見直しを行い、より学年にあったフレーズを選定する。日常的に使用するフレーズの会話を繰り返し練習し、定着するまで小学校では6力年間継続していけるような学習計画を設定していく。 ②英検受験を推奨していくよう英語指導員から声かけを行い、英語担当の教師は学校行事の日程の見直しや計画的な告知で受験意欲を喚起する。 ③英語指導員と英会話指導員(ALT)とで協力し、英検受験に対する講座をおこなう。		

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
17,101	16,489	13,191	3,298	612



資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支援員は嘉手納町嘱託員設置要綱に基づき採用した。 ○予算は嘉手納町特別職の職員の給与並びに旅費及び費用弁償に関する条例施行規則に基づき計上されており、適正であった。 ○費目・用途については、報酬と共済費のみであり、支援員配置事業に必要なものに限定されている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名 嘉手納町

平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名: 2-③ ICT活用事業 沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所 第3章-5-(4)-ア
担当部課名: 嘉手納町教育委員会 教育指導課 事業実施(予定)年度: 平成24~33年度 沖縄振興基本方針該当箇所: Ⅲ-3-(1)

事業内容: 教員のICT機器活用の習熟を高め、学校教育の質の確保を図るため、教員や児童生徒の情報機器操作能力の向上を支援するICT指導員を配置する。

効果発現年度: 当年度 ( ) 後年度( )年度

実施方法: 直接実施 ( ) 委託 ( ) 補助 ( ) 負担 ( ) その他 ( )

Table with columns for years 25-29 and rows for budget status (a-d), execution amount, and execution rate. Includes a note on budget status explanation.

Activity target and achievement status table. Includes H29 activity target (PC instructor deployment) and achievement status (26-29 years).

Outcome target and progress status table. Includes H29 outcome target (text input skills) and progress status (H30 targets for student/teacher surveys).

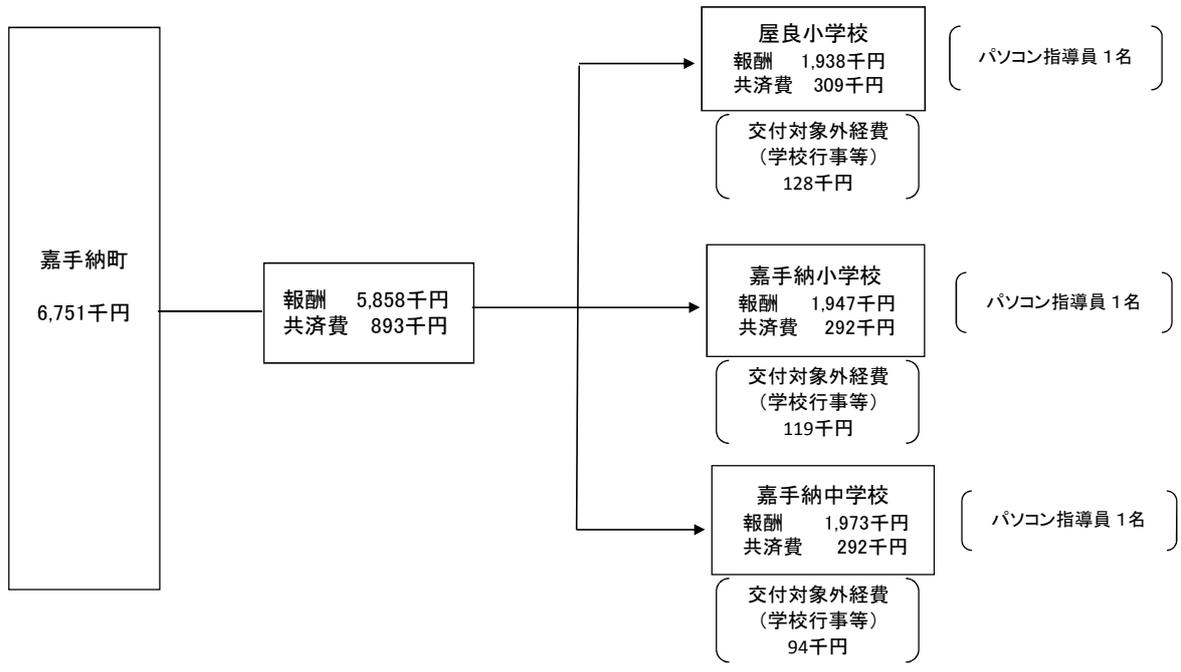
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	①ICT機器の操作について教師の技能にばらつきがある。 ②小学校のタイピング技能習得状況を確認するために採用している検定サイトの難易度が高く、合格率が低くなっている。 ③中学校において、パソコン検定対策講座を開設しているが、参加者が少ない。	①教師の技能のばらつきを考慮し、支援が必要な教師に対して重点的なサポートを行う必要がある。 ②タイピング技能習得状況の確認方法、難易度設定が妥当か検討する必要がある。 ③パソコン検定対策講座の周知を行い、参加者の増加を図る。

**今後の取り組み方針**

①支援が必要な教師の技能向上を図るため、教職員の研修において、パソコン指導員の授業等での活用の仕方を共有し、すべての教師が授業でICT機器が活用できるようサポートする。  
 ②タイピング技能習得状況の確認方法について、学年ごとの難易度設定を見直す。  
 ③パソコン検定対策講座の周知を行い、参加者を増加させるとともに合格率も高める。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費
7,092	6,751	5,401	1,350	341



資金の 使途の 流れ、 評価 ・ 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支援員は嘉手納町嘱託員設置要綱に基づき採用した。 ○予算は嘉手納町特別職の職員の給与並びに旅費及び費用弁償に関する条例施行規則に基づき計上されており、適正であった。 ○費目・使途については、報酬と共済費のみであり、支援員配置事業に必要なものに限定されている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名 嘉手納町

平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2-④	不登校対策生徒指導支援員配置事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-イ
担当部課名	教育指導課	事業実施(予定)年度	平成24~33年度	沖繩振興基本方針該当箇所
				豊かな心とたくましい体を育む教育の推進
				Ⅲ-3-(1)

事業内容 特別な支援を要する不登校の生徒に対応した支援を行うことで不登校の改善を図るため、中学校へ生徒指導支援員を配置する。

効果発現年度  当年度  後年度( 年度)

実施方法  直接実施  委託  補助  負担  その他( )

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況					
	(a) 当初予算額	3,094	1,977	3,493	3,481	3,540
	(b) 予算現額	2,461	1,977	3,128	2,589	3,151
	(c) 増減額(b-a)	▲ 633	0	▲ 365	▲ 892	▲ 389
	(d) 繰越額	-	-	-	-	-
	A. 計(b+d)	2,461	1,977	3,128	2,589	3,151
	B. 執行済額	2,461	1,764	3,128	2,589	3,151
	うち交付金充当額	1,940	1,411	3,128	2,071	2,520
	次年度繰越額	-	-	-	-	-
	執行率(%) (B/A)	100.0%	89.2%	100.0%	100.0%	100.0%
予算の状況の説明	不登校対策生徒指導支援員を本町内中学校に2名配置し、報酬と社会保険料をそれぞれ予定通り12ヶ月分執行した。補正予算(389千円)は、当初見込日数と実績日数の差額である。					

活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)	達成状況			
		26年度	27年度	28年度	29年度
		生徒指導支援員配置数 中学校:2人	目標 ( 中学校2人 )	( 中学校2人 )	( 中学校2人 )
	実績	中学校2人	中学校2人	中学校2人	中学校2人
	目標	( )	( )	( )	( )
	実績				
達成状況説明	中学校へ2名の指導員を配置し、生活リズムの崩れた不登校生徒へ生活指導や悩み相談を実施して、学級での授業が受けられるように支援を行った。				

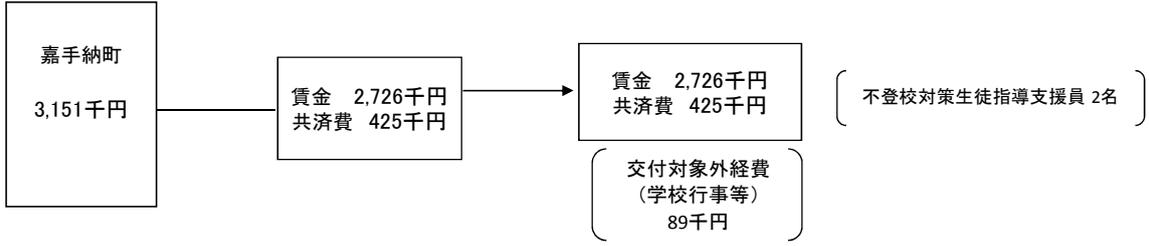
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)	基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(30年度)	
		不登校生徒の出現率3.2%以下 (平成27年度:出現率3.6%)	目標 ( )	( 4.0%以下 )	( 3.20% )	( 3.2%以下 )	( )
			実績	3.63%	3.57%	1.40%	
		【H30成果目標】 不登校生徒復帰率 16.7%以上	目標 ( )	( )	( )	( )	( 16.7%以上 )
	実績						
進捗状況説明	生徒とのコミュニケーションを図り、不登校生徒の早期発見・早期対応として、生徒の家庭訪問や巡回指導を行ったことで、改善が見られている。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	①不登校とまではいなくても年間10日～30日の欠席の生徒が多数いる。 ②保護者においては、生徒指導補助員を学校の職員としてとらえておらず、一部において保護者との信頼関係の構築に苦悩する場面があった。	①欠席や問題行動の初期での対応について、担任と生徒指導補助員とで連携を行う。 ②地域、保護者との信頼感関係の構築のため、生徒指導補助員の存在や役割について周知を行う必要がある。

今後の取り組み方針
①不登校の早期発見・早期対応の観点から、担任と連携を図り、行動面や欠席の状況から家庭訪問を実施したり、無届欠席3日連続の生徒宅への訪問を行う。 ②校長だよりやホームページ等で生徒指導補助員の存在や役割について周知を行う。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
3,240	3,151	2,520	631	89



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支援員は嘉手納町臨時職員管理規程に基づき採用した。 ○予算は嘉手納町特別職の職員の給与並びに旅費及び費用弁償に関する条例施行規則に基づき計上されており、適正であった。 ○費目・用途については、報酬と共済費のみであり、支援員配置事業に必要なものに限定されている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名 嘉手納町

平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2-⑤	スクールカウンセラー活用事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-イ
担当部課名	教育指導課	事業実施(予定)年度	平成25~33年度	豊富な心とたくましい体を育む教育の推進
			沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(1)

事業内容  
 学校生活や学級集団への不適応や対人関係での問題が生じている児童生徒に対して、困り感の解消や不適応症状の改善を図るためスクールカウンセラー(臨床心理士)を配置しカウンセリングや教育相談を行う。

効果発現年度  当年度  後年度( 年度)

実施方法  直接実施  委託  補助  負担  その他( )

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	(a) 当初予算額	2,592	2,592	4,954	4,962	4,988
	(b) 予算現額	2,556	2,556	4,973	4,860	4,792
	(c) 増減額(b-a)	▲ 36	▲ 36	19	▲ 102	▲ 196
	(d) 繰越額	-	-	-	-	-
	A. 計(b+d)	2,556	2,556	4,973	4,860	4,792
	B. 執行済額	2,556	2,556	4,973	4,860	4,791
	うち交付金充当額	2,000	2,000	3,978	3,887	3,832
	次年度繰越額	-	-	-	-	-
	執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	予算の状況の説明	臨床心理士を雇用し、時給3,000円にて1日6時間の勤務。報酬と社会保険料をそれぞれ予定通り12ヶ月分執行した。補正予算額(196千円)は、当初見込日数と実績日数の差額である。				

活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)	達成状況				
		26年度	27年度	28年度	29年度	
	スクールカウンセラー配置数:1人	目標	( 1人 )	( 1人 )	( 1人 )	( 1人 )
		実績	1人	1人	1人	1人
	目標	( )	( )	( )	( )	
	実績					
達成状況説明	青少年センターへのスクールカウンセラー(臨床心理士)を配置し、児童生徒と保護者の相談業務を行い、児童生徒の行動観察や児童生徒への支援体制の検討を実施。適応教室の児童生徒においては、適応教室相談員に対する助言や直接のカウンセリングを行った。					

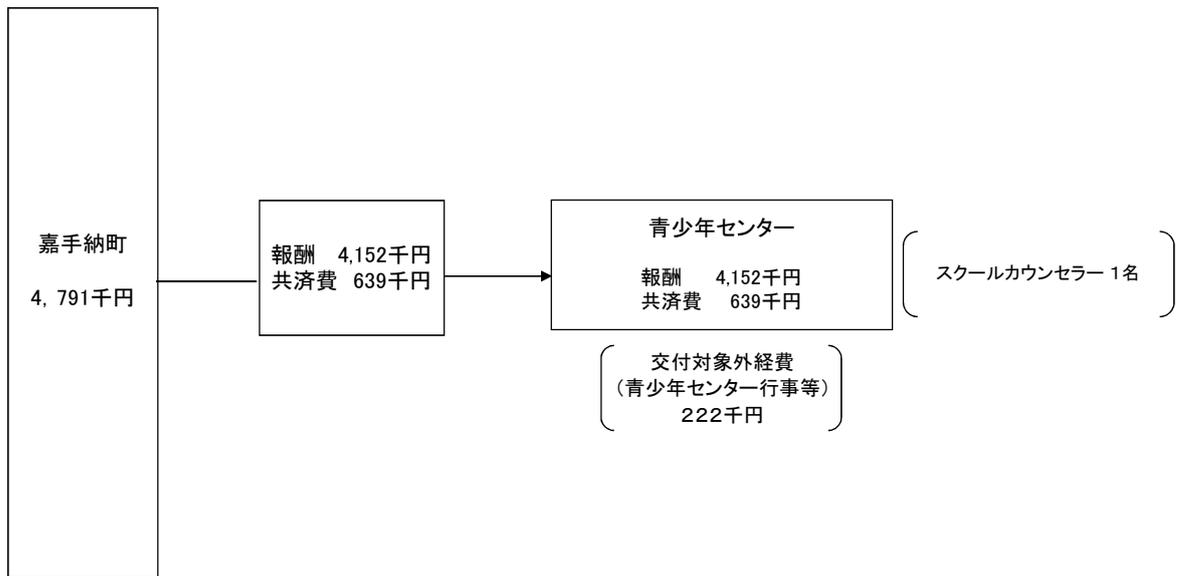
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(30年度)
			児童生徒の総欠席日数の減 平成26年度→平成29年度 屋良小学校1,998日→1,800日 嘉手納小学校3,514日→3,400日 嘉手納中学校3,691日→3,500日	目標	( )	( )	屋良小 1,800日 嘉手納小3,400日 嘉手納中3,500日
【参考】サポートした児童生徒等の学校生活への適応や学校復帰等改善が確認できた人数:3人	目標	( )	( 3人 )	( )	( )	( )	
	実績		27人				
【H30成果目標】アンケート調査を実施し、相談を受けた児童生徒のうち、症状が改善した判断した割合 68.7%	目標	( )	( )	( )	( )	( 68.7% )	
	実績						
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象の児童生徒の保護者と継続して面談を行うことで、保護者の児童生徒に対する理解を深めることができた。</li> <li>関係機関と連携を図り、情報交換しながら間接的に支援することができ課題改善につながった。</li> <li>支援方法に行き詰まりを感じている保護者や教職員に対しては、ともに具体的な支援方法を模索することで、学習面や行動面でよい変容が見られた。</li> <li>不登校になる前に学校を休みがちになる傾向が大きいことから、総欠席日数を減らすことを目指すことで、早期発見・早期対応へ現状の分析とした。</li> </ul>						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	①公的機関ということで保護者が身構え信頼関係の構築に難色を示すケースがある。 ②非行傾向の生徒の中には将来に対する不安や進学に対する不安を持っている生徒がいる。	①保護者との連携が難しいケースに対応するため、これまでの教育相談に加え、その他の相談窓口も充実させ、保護者から相談しやすい体制をつくることで関係構築を目指す。 ②非行傾向にある生徒に対しては生活指導が優先になり、学習や進路への取り組みが後回しになる傾向があるため、学年や進路担当と情報を共有し学力面でのサポート及び進路面での相談を強化する。

今後の取り組み方針
①電話相談、窓口相談等も充実させ、困り感を抱える児童生徒、保護者へ幅広く対応していくようにする。 ②困り感のある幼児児童生徒の発達段階や実態に応じた教育相談を充実させるとともに、小中学校の担任等や青少年センターの教育相談担当と連携して、きめ細かな支援を実施できるようにする。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
5,013	4,791	3,832	959	222



資金の 用途の 流れ、 点検 評価 ・ 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支援員は嘉手納町嘱託員設置要綱に基づき採用した。 ○予算は嘉手納町特別職の職員の給与並びに旅費及び費用弁償に関する条例施行規則に基づき計上されており、適正であった。 ○費目・用途については、報酬と共済費のみであり、支援員配置事業に必要なものに限定されている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		嘉手納町					
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-⑥	秋田交流学習体験事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア	
担当部課名	教育指導課	事業実施(予定)年度	平成26~30年度		沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身につける教育の推進 Ⅲ-3-(1)	
事業内容	児童生徒に学習規律を習得させ、また教師の指導法や授業内容を向上させることで授業環境の改善を図るため、教育先進地である秋田県大館市に本町の児童生徒及び教師を派遣し、交流学習体験を行う。また、大館市の教師を招聘し、町内小中学校の教師等を対象とした研修会を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(    年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(    )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	3,443	3,985	3,814	3,308	
		(b) 予算現額	3,443	2,862	2,853	2,944	
		(c) 増減額(b-a)	0	▲1,123	▲961	▲364	
		(d) 繰越額	-	-	-	-	
	A. 計(b+d)		3,443	2,862	2,853	2,944	
	B. 執行済額		3,077	2,862	2,853	2,944	
	うち交付金充当額		2,461	2,289	2,282	2,355	
	次年度繰越額		-	-	-	-	
	執行率(%) (B/A)		89.4%	100.0%	100.0%	100.0%	
予算の状況の説明		委託料を入札にて予定通り執行した。補正予算額(364千円)については、入札残である。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	秋田県への派遣 ・児童生徒 20名 ・教師 9名	目標	( 児童生徒及び教諭の派遣 )	( 実施 )	( 実施 )	( 実施 )	
		実績	児童生徒及び教諭の派遣	実施	実施	実施	
	秋田県からの招聘 ・教師 3名	目標	( 児童生徒及び教諭の派遣 )	( 実施 )	( 実施 )	( 実施 )	
実績		児童生徒及び教諭の派遣	実施	実施	実施		
達成状況説明	小中学生20名・教師9名を秋田県へ派遣。3日間授業を体感し、学びを生かし、各学校へ伝達。アンケート結果によると小学校、中学校とも学校の授業について「わかりやすい」「楽しい」「みんなが意見を出し合い、皆が自分の意見を認めていると思う」との質問項目で、7月と12月の調査で変容を比較するといずれもよい方向で伸びている。秋田県との授業交流が教師の指導と生徒の学習に対する意欲に波及している。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(30年度)
	・授業改善・指導法の工夫を図っている教師の割合60%以上(交流後の報告会、公開授業後に意識調査を実施)	目標	(    )	( 60%以上 )	( 60%以上 )	( 60%以上 )	(    )
		実績		66%	93%	81%	
	・思考・判断・表現を育む言語活動の充実に努めている教師の割合90%以上(教職員へのアンケートを実施)	目標	(    )	( 小学校50% 中学校55% )	( 90%以上 )	( 90%以上 )	(    )
		実績		小学校59.6% 中学校48.7%	86%	84%	
	【H30成果目標】 (派遣された児童生徒へのアンケート) ・学習規律を学ぶことができたか(80%以上)を含め、アンケートにより、本事業のあり方を検証する。	目標	(    )	(    )	(    )	(    )	( 80%以上 )
		実績					
	【H30成果目標】 (研修会や報告会を受けた教師へのアンケート) ・授業環境の改善や指導法の工夫を行ってこういうスキル・意欲が身に付けられたか(80%以上)を含め、アンケートにより本事業のあり方を検証する。	目標	(    )	(    )	(    )	(    )	( 80%以上 )
実績							
進捗状況説明	秋田県へ児童生徒20名、教師9名を派遣し、学習方法の習得に取り組んだ。習得した学習技法などを実践、報告を行なった。各学校では報告書を作成し、学力向上推進報告会において、秋田へ派遣された児童生徒、教師の関係者を招いて実践報告を行った。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	①派遣した児童生徒の大館市でのそれぞれの学びが各学校で広がらない。 ②教師のそれぞれの学びからの実践項目が両小学校(屋良小、嘉手納小)で統一できていなかったり、小中学校で指導の一貫性が図られていない。	①派遣した児童生徒が大館市での学びを広げるために協力体制を整えて進めていく必要がある。 ②両小学校での実践項目を統一し、小中学校で指導の一貫性をもたせる必要がある。
<b>今後の取り組み方針</b>		
①旅行の行程の中に児童生徒がそれぞれの学びを共有し、どのように各学校で学びを共有するかを話し合う場を設定する。 ②体験終了後に両小学校と一緒に報告をおこなったり、中学校との指導の一貫性をもたせるようねらいを明確にした報告会を実施し、学校現場での実践を推進させる。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)					
	総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費
	2,970	2,944	2,355	589	26
<pre>           graph LR             A[嘉手納町 2,944千円] --&gt; B[委託料 2,944千円]             B --&gt; C["(株)ワールドツーリスト 2,944千円"]             C --- D["秋田交流学習体験事業委託業務"]             C --- E["対象外経費 帰省時空港昼食代 26千円"]           </pre>					
資金の 使途の 流れ、 点検 評価 ・ 費用	評価	点検項目	評価に関する説明		
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は入札により選定している。 ○予算規模は業者より見積を徴し、計上したものであり、適正である。 ○費用・使途は事業目的に即し、移動や宿泊等の必要なものに限定されている。		
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。			
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。			
	○	費用・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。			

市町村名 嘉手納町

平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

Table with 4 columns: 事業番号・事業名 (2-⑦, 特別支援教育支援員配置事業), 沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所 (第3章-5-(3)-ウ), 担当部課名 (教育指導課), 事業実施(予定)年度 (平成28~33年度), 沖縄振興基本方針該当箇所 (III-3-(1))

事業内容 特別な支援を要する児童生徒に対応した支援を行い、学校生活や学習上の困難の改善を図るため、町内の各小中学校に特別支援教育支援員(教育サポーター、介助員)を配置する。

効果発現年度 ■当年度 □後年度( 年度)

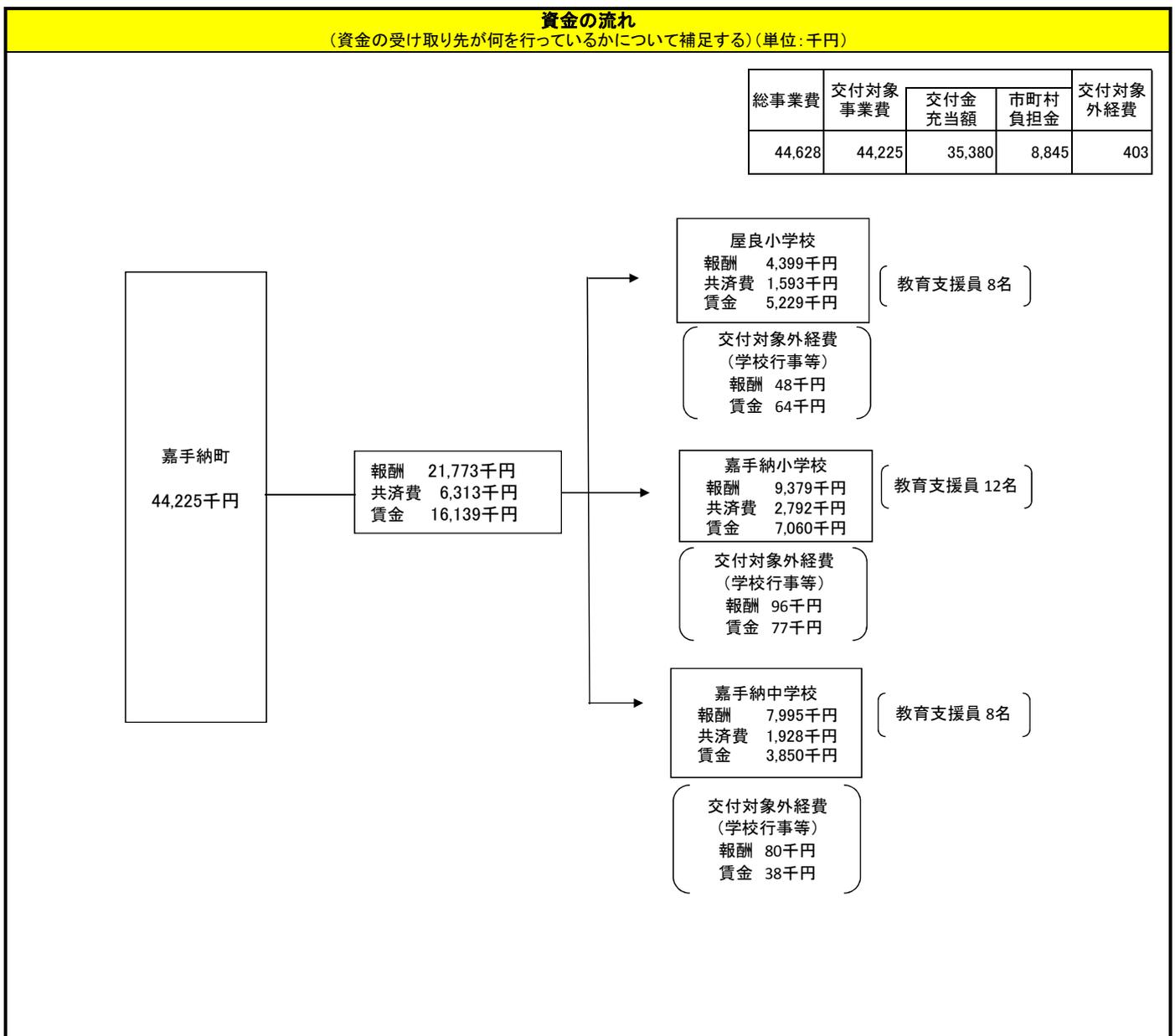
実施方法 ■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他( )

Table with 7 columns: 28年度, 29年度, 30年度, 31年度, 32年度. Rows include: 予算額・執行額 (a)当初予算額, (b)予算現額, (c)増減額, (d)繰越額, A.計, B.執行済額, うち交付金充当額, 次年度繰越額, 執行率(%) (B/A), 予算の状況の説明

Table with 5 columns: H29活動目標(指標), 28年度, 29年度, 30年度, 31年度. Rows include: 特別支援教育支援員配置数 (目標, 実績), 達成状況説明

Table with 7 columns: H29成果目標(指標), 基準値(年度), 28年度, 29年度, 30年度, 目標値(30年度). Rows include: 「支援を要する児童生徒への支援の充足率50%」 (目標, 実績), 【参考指標】支援対象児童生徒数:25名 (目標, 実績), 【H30成果目標】対象となる保護者へのアンケートを実施し、特別支援員の対応への満足度 80%以上 (目標, 実績), 進捗状況説明

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	①支援を必要とする生徒の成長段階に合わせた支援方法構築を行う必要がある。 ②他の生徒を巻き込んだトラブル等が発生している。	①各学校の特別支援教育コーディネーター(教諭)と連携して、支援を要する児童生徒の成長の度合いを確認する必要がある。 ②周囲の児童生徒への障害理解促進を図る必要がある。
	<b>今後の取り組み方針</b>	
①特別支援教育コーディネーターや担任等対象児童生徒に関係する職員との連携を密にするとともに、支援体制を充実させるためにこれまで業務記録のみであったが支援記録を作成することで成長の度合いを確認する。 ②社会生活力を伸ばし、対象児童生徒の特性を本人や周りの児童生徒へも理解させ、物事に対処する術を身につけるよう支援する。		



資金の 使途の 流れ、 費目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支援員は嘉手納町嘱託員設置要綱に基づき採用した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算は嘉手納町特別職の職員の給与並びに旅費及び費用弁償に関する条例施行規則に基づき計上されており、適正であった。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については、報酬と共済費のみであり、支援員配置事業に必要なものに限定されている。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名 嘉手納町

平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3-①	雇用促進事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(10)-ア
担当部課名	産業環境課	事業実施(予定)年度	平成25~29年度	沖繩振興基本方針該当箇所
				雇用機会の創出・拡大と求職者支援
				Ⅲ-2

事業内容 就職相談窓口を開設し、求人・求職者を結ぶ就労支援を行うことで、本町における雇用の拡大を図る。

効果発現年度  当年度  後年度( 年度)

実施方法  直接実施  委託  補助  負担  その他( )

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	(a) 当初予算額	3,633	3,864	3,864	3,609	3,464
		(b) 予算現額	3,633	3,864	3,557	3,539	3,307
		(c) 増減額(b-a)	0	0	▲ 307	▲ 70	▲ 157
		(d) 繰越額	-	-	-	-	-
	A. 計(b+d)		3,633	3,864	3,557	3,539	3,307
	B. 執行済額		3,632	3,838	3,557	3,539	3,306
	うち交付金充当額		2,905	3,070	2,846	2,831	2,645
	次年度繰越額		-	-	-	-	-
	執行率(%) (B/A)		100.0%	99.3%	100.0%	100.0%	100.0%
	予算の状況の説明		事業計画どおりに執行を行った。増減額の▲157千円は入札に伴う不用額で、3月補正にて減額した。				

活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)	達成状況			
		26年度	27年度	28年度	29年度
相談窓口開設(毎週火・金曜日) 95回	目標	( 98回 )	( 97回 )	( 100回 )	( 95回 )
	実績	97回	97回	98回	95回
セミナーの開催(毎週金曜日) 45回	目標	( 51回 )	( 50回 )	( 50回 )	( 45回 )
	実績	51回	49回	49回	45回
達成状況説明	<p>相談窓口は、計画通り開設し、全95回開設し、目標を達成することができた。</p> <p>セミナーは、開催予定日が閉庁日に計画されていたこと等により、当初の計画を少し変更し、開催予定日以外に開催日を設けることもあったが、全45回開催し、目標を達成することができた。</p>				

成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)	基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(30年度)
			全体のうち嘉手納町の就職人数 : 10人	目標	( )	( 就職人数:2人 )
	実績		就職人数:9人	就職人数:14人	就職人数:8人	
全体のうち嘉手納町の相談人数: 220人 相談人数…窓口相談人数及びセミナー受講者数	目標	( )	( 相談人数:100人 )	( 相談人数:100人 )	( 相談人数:220人 )	( )
	実績		相談人数:230人	相談人数:177人	相談人数:134人	
【H30成果目標】 相談者及び受講者の内、就職が決まった人数(割合):5.7%以上	目標					( 5.7%以上 )
	実績					

進捗状況説明

(就職人数)  
全体13人のうち、町民は8人であった。

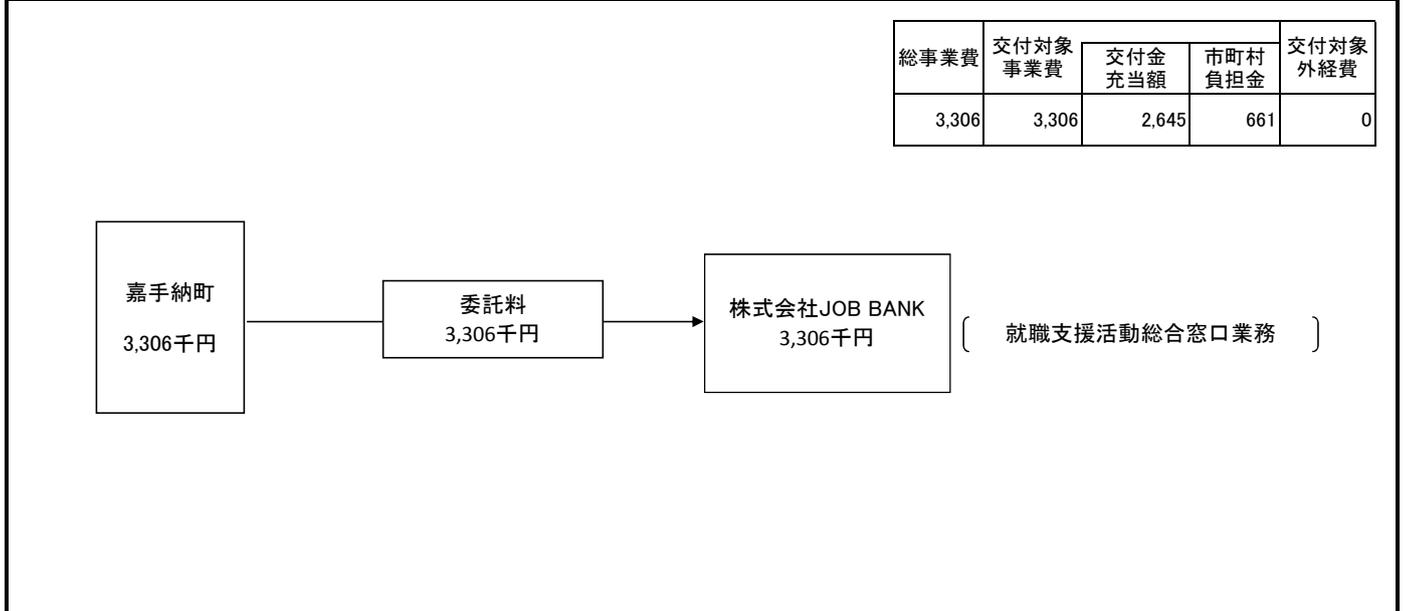
(相談人数)  
窓口相談人数は全体186人のうち町民は97人であり、セミナー受講者数は全体136人のうち町民は37人であった。よって、相談人数としては、全体322人のうち、町民は134人であった。全体、町内ともに、相談者の年代は40~60代が約80%を占めており、20代、30代においてそれぞれ約10%、10代においては利用がなかった。

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>(就職人数) 相談人数が大きく減少したことが、就職人数が目標を下回った要因として考えられる(相談人数 H28年度:177人、H29年度:134人)。就職人数の実績値は目標値を下回ったが、相談人数に対する就職人数の割合を考えると、目標値が4.55%(就職10人/相談220人)に対し、実績値は5.97%(就職8人/相談134人)であり、割合としては上回っている。</p> <p>(相談人数) 若い世代の利用が少ないため、若い世代に向けての広告宣伝活動が不十分である。</p>	<p>(相談人数) 若い世代の利用増加に向けての新たな広告宣伝活動方法を検討する必要がある。</p>

**今後の取り組み方針**

前年度同様に様々な広告宣伝を行うとともに、若い世代の利用増加に向けて、教育機関と連携し広告宣伝を行う等、ほかの広告宣伝活動も検討する。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



	評価	点検項目	評価に関する説明
資金の 用途の 流れ、 費目 ・ 評価	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○委託事業者は一般競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。</p> <p>○予算規模については、執行率95%以上であり適正な規模であった。</p> <p>○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名 嘉手納町

平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	4-①	廃棄物リサイクル事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(2)-ア
担当部課名	産業環境課	事業実施(予定)年度	平成25~33年度	3Rの推進
			沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-10-(1)

事業内容  
ごみ処理施設及び最終処分場の長寿命化に向け、リサイクルを促進しながら町全体の美化を図るため、本町で排出されている草木を回収、チップ化し再資源化する。

効果発現年度  当年度  後年度( 年度)

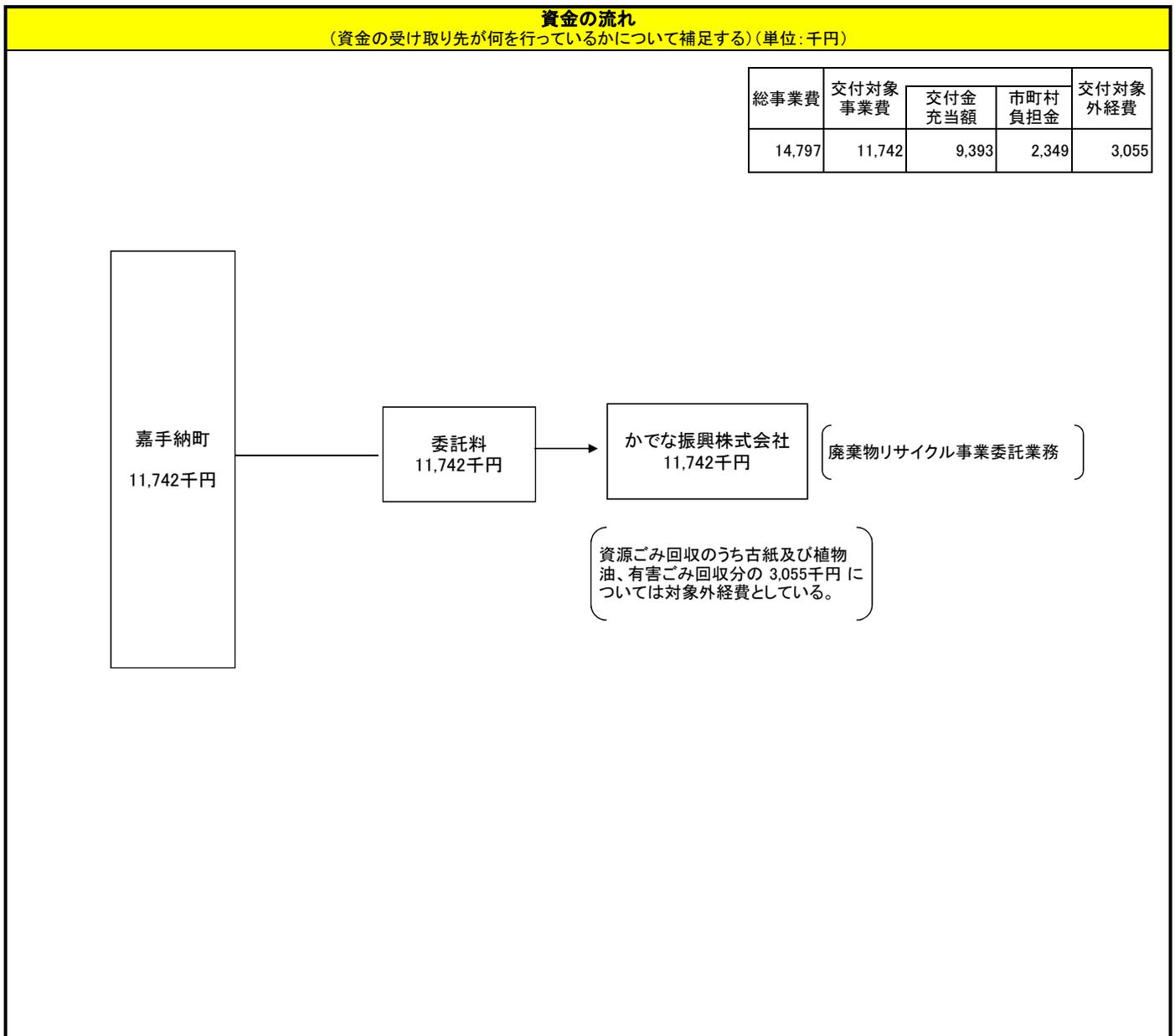
実施方法  直接実施  委託  補助  負担  その他( )

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況					
	(a) 当初予算額	16,072	50,214	15,491	13,397	11,831
	(b) 予算現額	16,072	50,214	11,374	11,843	11,769
	(c) 増減額(b-a)	0	0	▲ 4,117	▲ 1,554	▲ 62
	(d) 繰越額	-	-	-	-	-
	A. 計(b+d)	16,072	50,214	11,374	11,843	11,769
	B. 執行済額	16,072	44,195	11,374	11,842	11,742
	うち交付金充当額	12,857	35,356	9,099	9,474	9,393
	次年度繰越額	-	-	-	-	-
	執行率(%) (B/A)	100.0%	88.0%	100.0%	100.0%	99.8%
予算の状況の説明	現場管理費等の実績で清算を行い27千円の不用額がでた。事業は計画とおりすべて実施し執行した。					

活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)	達成状況			
		26年度	27年度	28年度	29年度
		草木の回収及び再資源化(チップ化)の実施	目標 ( 木くずの再資源化 )	( 木くずの再資源化 )	( 木くずの再資源化 )
	実績	木くずの再資源化(チップ化実施)	木くずの再資源化(チップ化実施)	木くずの再資源化(チップ化実施)	実施した
	目標	( )	( )	( )	( )
	実績				
達成状況説明	一般廃棄物4,475tのうち649tの草木の回収することにより一般廃棄物14.5%削減となった。またそのうち604tの草木をチップ化(再資源化)することができた。				

成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)	基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)	
		・平成29年度 草木の再資源化(チップ化)量 約600t	目標 ( )	( )	( 600t )	( 600t )	( )
		実績		686t	604t		
	【参考指標】平成27年度一般廃棄物量全体のうち再資源化を図った草木の量	目標	( 一般廃棄物処理量4,444tを基準とする減量化 )	( 一般廃棄物 )	( )	( )	( )
		実績		一般廃棄物 6.4%削減			
進捗状況説明	平成29年度の 草木の再資源化においては、649tの草木の回収のうち、604tをチップ化し処理することができた。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	平成29年度については、草木を収集した中において、直接破砕機で処理ができない太い木等、適切に分別されず、搬入されている草木が一部、混入されていた。	太い木等については、人員で切断し、破砕を行う為、リサイクルに時間を要する。 草木の受け入れについては、一般廃棄物処理基本計画では原則30cm以下での搬入となる為、30cm以下で搬入するように指導及び周知を行う必要がある。
<b>今後の取り組み方針</b>		
草木の搬入に関しては、一般廃棄物処理基本計画に伴って適切に搬入処理をするよう、今後も町ホームページや広報を活用し指導及び周知に取り組んでいく。		



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は、随意契約であるが、長年、廃棄物リサイクルの草木のチップ化(破砕)以外にも本町の草木の収集運搬を行っており、長年の経験や実績により町の公衆衛生上問題なく業務の遂行を行えていて妥当である。 ○費用・用途についても目標達成に必要なものなのか等について額の確定時において支出等の書類で確認しており、適正である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名 嘉手納町

平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	5-①	嘉手納町防犯灯・街路灯LED化事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(3)-ア
担当部課名	都市建設課	事業実施(予定)年度	平成26~29年度	地球温暖化防止対策の推進
			沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-10-(1)

事業内容 温室効果ガスの排出量を削減するため、町内に設置されている防犯灯・街路灯(933基)をLED照明に切り替える。

効果発現年度  当年度  後年度(30年度)

実施方法  直接実施  委託  補助  負担  その他( )

		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況					
	(a) 当初予算額	7,297	35,000	40,760	41,574	
	(b) 予算現額	7,297	40,176	36,716	39,557	
	(c) 増減額(b-a)	0	5,176	▲ 4,044	▲ 2,017	
	(d) 繰越額	-	-	-	-	
	A. 計(b+d)	7,297	40,176	36,716	39,557	
	B. 執行済額	6,123	40,176	36,716	36,998	
	うち交付金充当額	4,898	32,140	29,372	29,598	
	次年度繰越額	-	-	-	-	
	執行率(%) (B/A)	84%	100%	100.0%	93.5%	
予算の状況の説明	入札の結果、工事請負費、委託料供に入札残があったことから、不用となる工事請負費1,831千円、委託料186千円を3月減額補正しました。					

活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)	達成状況			
		26年度	27年度	28年度	29年度
既設の防犯灯及びデザイン街路灯のLED化の実施	目標	( 実施設計の実施 )	( 500基 )	( 375基 )	( 58基LED化 )
	実績	実施設計の実施	500基	375基	57基LED化
価格調査業務	目標	( )	( )	( )	( 価格調査の実施 )
	実績				価格調査の実施
達成状況説明	平成29年度においてはLED灯具への取替え57基実施した。目標値は58基のLED化であったが、工事発注前に再度現場調整を行った結果、1基不要と判断し57基の取替を実施した。また、工事費の積算のために、価格調査業務を実施した。				

成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)	基準値(26年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(30年度)
		町内の既存防犯灯のLED化によるCO2排出量の削減割合(防犯灯1基あたりの削減割合)	( )	( )	( )	( 64%減/基 )
					64%減/基	
	【H30成果目標】 町内の防犯灯・街路灯をLED化することによる年間のCO2排出削減量 ・CO2排出削減量 231,680kg-CO2/年	目標	( )	( )	( )	( )
進捗状況説明	既存の防犯灯をLED化したことにより消費電力が減り、防犯灯1基あたりのCO2排出量を64%削減することができた。					



市町村名 嘉手納町

平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	6-① 食育まんが啓発推進事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(1)-ア
担当部課名	町民保険課	事業実施(予定)年度	平成26~31年度
		沖縄振興基本方針該当箇所	III-4

事業内容 健康的な食生活の情報を周知することで、町民の食生活の改善に対する意識の向上を図るため、食育まんがの制作および配布を行う。

効果発現年度  当年度  後年度( 年度)

実施方法  直接実施  委託  補助  負担  その他( )

		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況					
	(a) 当初予算額	1,199	2,138	2,138	2,394	
	(b) 予算現額	1,199	2,138	2,138	2,174	
	(c) 増減額(b-a)	0	0	0	▲ 220	
	(d) 繰越額	-	-	-	-	
	A. 計(b+d)	1,199	2,138	2,138	2,174	
	B. 執行済額	1,199	2,138	2,138	2,173	
	うち交付金充当額	959	1,710	1,710	1,738	
	次年度繰越額	-	-	-	-	
	執行率(%) (B/A)	100%	100.0%	100.0%	100.0%	
予算の状況の説明	当初の計画どおり期間内に事業が完了した。公募型プロポーザル方式の予算残額は、3月補正にて220千円を減額した。					

活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)	達成状況			
		26年度	27年度	28年度	29年度
まんがの制作(2本)	目標	( 1作品 )	( 2作品 )	( 2作品 )	( 2作品 )
	実績	1作品	2作品	2作品	2作品
対象者への配布率(100%)	目標	( 3,000部 )	( 6,000部 )	( 100% )	( 100% )
	実績	3,000部	6,000部	100%	100%
ウェブブック化(7本)	目標	( )	( )	( )	( 7本 )
	実績				7本
達成状況説明	食育まんがを2作品作成(3,000部/作品)し、配布対象である町内認可保育園保護者から中学生まで全ての対象者に配布し、ウェブブックを7本掲載した。				

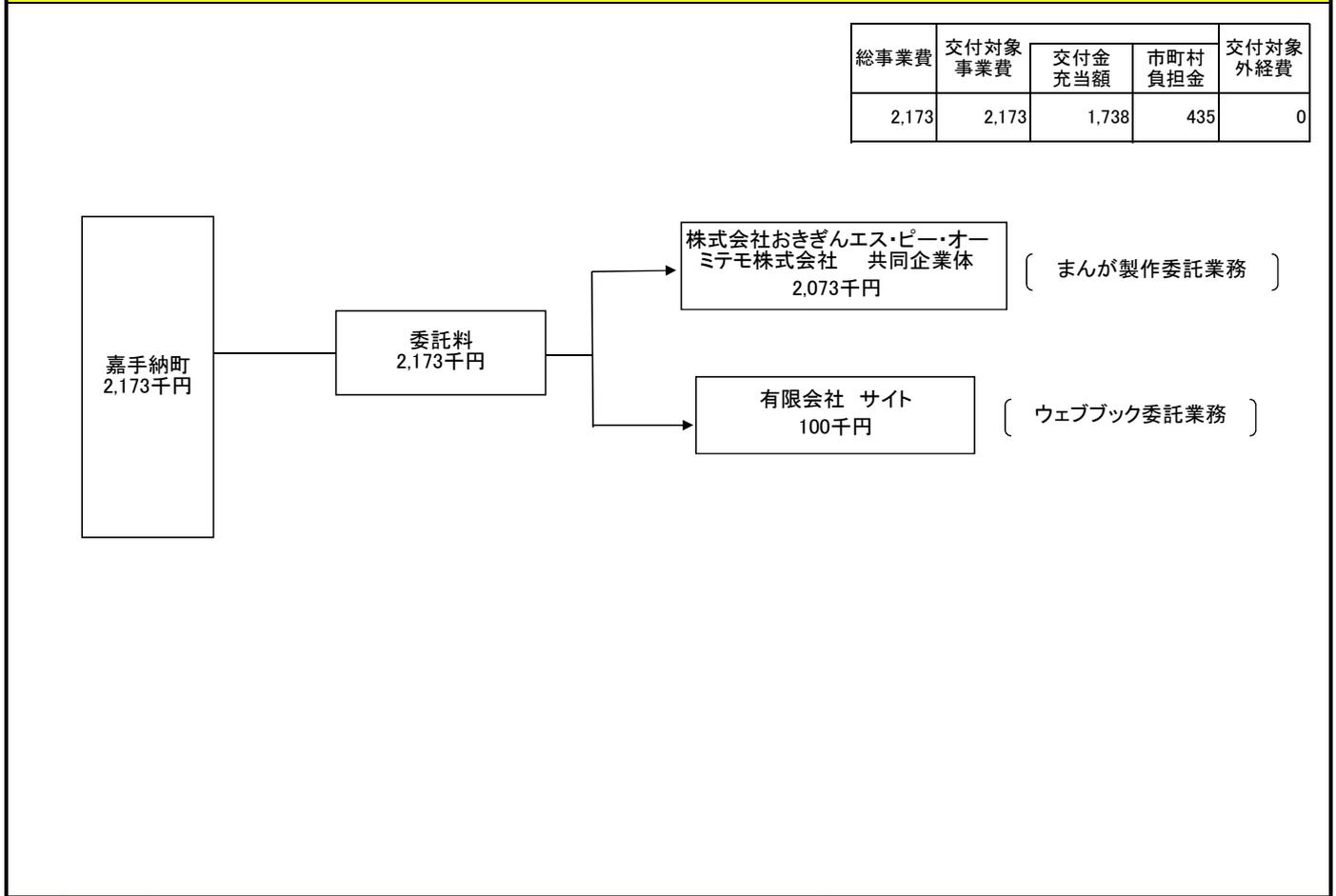
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(25年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(30年度)
			(平成25年~28年度) 保育所保護者の食育の言葉と意味を理解している者の割合	目標	( 52.4% )	( 20.0% )	( 40.0% )
	実績		59.0%	54.4%			
(平成29年度) 保育所保護者の「食育」認知度	目標	( )	( )	( )	( 65.00% )	( )	
	実績				94.1%		
保育所保護者の食育関心度の向上(食育まんがを読んだことで食育への関心が高まったと回答した人の割合)	目標	( )	( )	( 増加 )	( 前回より向上 )	( )	
	実績			32.8%	48.7%向上		
小学生の食育関心度の向上(食育まんがを読んだことで食育への関心が高まったと回答した児童の割合)	目標	( )	( )	( - )	( 配布前より向上 )	( )	
	実績			69.2%(H28食育意識調査)	17.2%向上		
【H30成果目標】 食生活の改善に対する意識の向上が図られたか(80%以上)を含め、住民へのアンケートにより本事業のあり方を検証する。	目標	( )	( )	( )	( )	( 80%以上 )	
	進捗状況説明	目標設定値は、平成29年度は「食育」認知度向上の目標値65%を設定し、平成30年1月末に保育所の保護者119名のアンケート調査を行い、認知度は94.1%と目標を達成した。平成30年1月末に保育所119名、小学校308名のアンケート調査を行い、参考指標の食育の関心度が保育所は32.8%から81.5%へ増加し、小学生は86.4%の結果であった。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒及び保護者を対象としたアンケートで今後食育まんがで取り上げてほしいテーマを調査した結果、適切な食事量と栄養バランスについて関心が高いことが確認された。</li> <li>・保護者を対象としたアンケートの結果、児童生徒だけでなく、保護者自身の食生活についても栄養バランスの偏りに関心がある結果となっていた。</li> <li>・食育への関心は向上しているが、実際の食生活習慣の改善につながっているかの確認できていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の食にまつわる環境や抱える課題を把握し、今後の食育まんがで取り上げるテーマを選定する必要がある。</li> <li>・児童生徒向けに食育への関心を高めるようにまんがを作成しているが、読者の想定を保護者等の大人にも拡大し、町民全体の食生活習慣の改善に向けた取組が必要である。</li> <li>・本事業が実際の食生活習慣の改善につなげる取組が必要がある。</li> </ul>

**今後の取り組み方針**

・児童生徒や保護者の関心の高いテーマで食育まんがを作成することで、より効果的な食育への関心向上が図られることから、平成30年度事業で作成する食育まんがでは適正な栄養バランスを取り上げる。  
 ・食育まんがに大人を读者に想定した内容を盛り込み、また、配布先を町民全体に拡大することで、町民全体の食生活習慣の改善につなげる。  
 ・健診結果説明会やウォーキング大会、クッキング教室等に食育まんがを活用するなど、本事業が実際の食生活習慣の改善につなげる取組を行う。

**資金の流れ**  
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の 使途の 流れ、 点検、 費目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○公募型プロポーザル方式により民間業者より選定し随意契約した。 ○予算規模は4社から見積りを徴し、比較検討したため適正な規模と考える。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名 嘉手納町

平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	7-①	避難施設防災機能強化整備事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(4)-イ
担当部課名	総務課	事業実施(予定)年度	平成25~31年度	災害に強い県土づくりと防災体制の強化
			沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-10-(2)

事業内容 防災機能強化として、非常食料の備蓄、生活必需品の備蓄、避難所設置応急対策備品等の導入及び備蓄倉庫の整備を行い、災害時の町内避難者や観光客等の食料及び飲料水等の確保を図る。

効果発現年度  当年度  後年度(32年度)

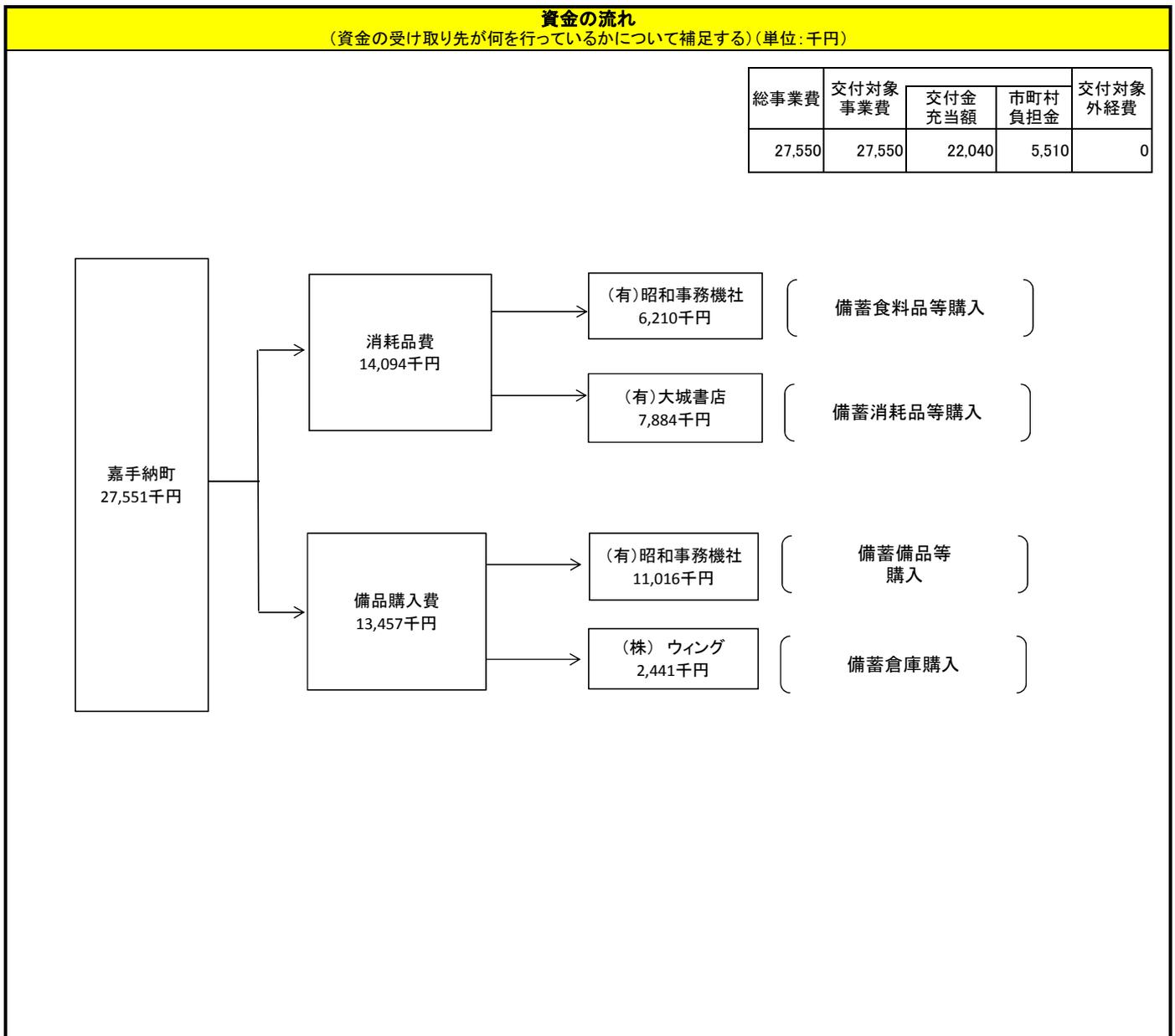
実施方法  直接実施  委託  補助  負担  その他 ( )

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	(a) 当初予算額	40,000	-	35,787	15,788	30,143
	(b) 予算現額	40,000	-	29,334	14,710	30,143
	(c) 増減額 (b-a)	0	-	▲ 6,453	▲ 1,078	0
	(d) 繰越額	-	-	-	-	-
	A. 計 (b+d)	40,000	-	29,334	14,710	30,143
	B. 執行済額	39,590	-	29,334	14,710	27,550
	うち交付金充当額	31,600	-	22,545	11,767	22,040
	次年度繰越額	-	-	-	-	-
	執行率 (%) (B/A)	99.0%	-	100.0%	100.0%	91.4%
	予算の状況の説明	嘉手納町の防災・減災に向けて備蓄倉庫を設置し必要最低限の備蓄を図った。不用額2,595千円は、指名競争入札残によるものである。				

活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)	達成状況				
		26年度	27年度	28年度	29年度	
	町内の避難所へ備蓄品等の配置及び保管用備蓄倉庫の設置(3か所)	目標	( - )	( 3か所 )	( 2か所 )	( 3か所配置・設置 )
		実績	-	3か所	2か所	3か所配置・設置完了
	目標	( )	( )	( )	( )	
	実績					
達成状況説明	避難施設の機能強化や非常食料の備蓄(600名3日分)、生活必需品の備蓄(600名3日分)、避難所設置応急対策備品(3避難施設分)の充実が図られ、平成29年度で町内避難所である町民の家(備蓄倉庫1基)・兼久体育館(備蓄倉庫3基)・マルチメディアセンター(備蓄倉庫1基)3か所への整備を行った。					

成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)	基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(32年度)	
		町内の避難所へ備蓄品の配置完了(H29年度で町内全避難所の80%配置完了)	目標	( )	( 55%配置 )	( 65%配置 )	( 80%配置 )
	実績			55%配置完了	65%配置完了	80%配置完了	
	【H32成果目標】 ・整備した資材を活用した避難訓練(1回以上/年)を実施することにより、本事業のあり方について検証する。	目標	( )	( )	( )	( )	( 1回以上/年 )
実績							
進捗状況説明	防災施設の機能強化や非常食料の備蓄・生活必需品の備蓄、避難所設置応急対策備品の充実が図られ、平成29年度で町内全避難所20施設の80%配置を完了しており、今後残り4避難所施設に備蓄品を配置する。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	嘉手納町内の防災・減災の強化に向けて、今回整備した避難所設置応急対策備品などを災害時にスムーズに活用できるか課題がある。	有事の際に、本事業で整備した備品・消耗品等を活用できるよう、テントの設営・発電機等の使用法など実践的な防災訓練を実施し、検証する必要がある。
今後の取り組み方針		
<p>今後も引き続き、残り4避難所施設に備蓄品等を配置する。  また、嘉手納町内の防災・減災の強化に向けて、テントの設営・発電機等の使用法習得や食料品の有効利用を図るために、実践的な訓練を実施し、検証していく。</p>		



資金の流 点検 評価 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は指名競争方式により選択しており、妥当である と考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については、複数社から見積をもらい決定して おり適正であると考えている。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途については、事業目的の観点から必要か等 について額の確定時において支出等に関する書類により確 認、適正であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名 嘉手納町

平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	7-②	嘉手納町防災情報発信強化事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(4)-イ
担当部課名	総務課	事業実施(予定)年度	平成29~31年度	沖繩振興基本方針該当箇所
				災害に強い県土づくりと防災体制の強化
				Ⅲ-10-(2)

事業内容 災害時において町民及び観光客等の安全の確保を図るため、防災行政無線のデジタル化を行う。

効果発現年度  当年度  後年度(32年度)

実施方法  直接実施  委託  補助  負担  その他 ( )

		29年度	30年度	31年度	32年度	33年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	(a) 当初予算額	7,462	-	-	-	-
	(b) 予算現額	7,128	-	-	-	-
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 334	-	-	-	-
	(d) 繰越額	-	-	-	-	-
	A. 計 (b+d)	7,128	-	-	-	-
	B. 執行済額	7,128	-	-	-	-
	うち交付金充当額	5,702	-	-	-	-
	次年度繰越額	-	-	-	-	-
	執行率 (%) (B/A)	100.0%	-	-	-	-
	予算の状況	予算の状況の説明 嘉手納町の防災・減災に向けて防災無線システムをデジタル化する為の基本計画を策定した。不用額334千円は、ポポーザルによるものであり、3月議会にて補正減を行った。				

活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)	達成状況			
		29年度	30年度	31年度	32年度
		防災情報システム整備事業基本計画策定	目標 (基本計画策定)	( - )	( - )
	実績	基本計画策定完了	-	-	-
	目標	( )	( )	( )	( )
	実績				
達成状況説明	防災無線システムをデジタル化する為、嘉手納町防災無線システムデジタル化基本計画を策定した。				

成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)	基準値(年度)	29年度	30年度	31年度	目標値(32年度)	
		防災情報システム整備事業基本計画策定	目標 ( )	(基本計画策定)	( - )	( - )	( )
		実績		基本計画策定完了	-	-	
	【H32成果目標】 防災無線を活用した避難訓練(1回以上/年)を実施することにより、本事業のあり方について検証する。	目標 ( )	( )	( )	( )	( 1回以上/年 )	
進捗状況説明	本事業にて嘉手納町の現状把握及び分析、災害に強いインフラネットワーク、災害情報伝達手段の多重化・多様化、災害弱者(避難行動要支援者等)への防災情報提供の方法、平時の有効活用、導入システムの整備基準・整備計画等を策定した。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	嘉手納町内の防災・減災の強化に向けて、今回整備した嘉手納町防災システムデジタル化基本計画にて、防音住宅内への情報伝達手段として、防災ラジオ等(防災ラジオ・個別受信機・固定電話への情報発信システム)が検討されているが、それらの規模決定根拠として、導入対象となる必要世帯数の把握ができてない。	嘉手納町避難行動要支援者名簿対象となる、「要介護認定者・身体障害者・知的障害者・精神障害者・75歳以上高齢者世帯・その他避難に支援を要する者」の条件より、システム導入対象となる世帯選定の条件検証等を行い、必要世帯の状況を把握している関係機関(福祉課、社協)と調整し、規模を決定していく。
今後の取り組み方針		
嘉手納町避難行動要支援対象者より、設置対象となる世帯数を決定し、具体的な数的根拠を元に規模決定を行い、実施設計へ反映させる。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)					
	総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
	7,128	7,128	5,702	1,426	
<pre> graph LR     A[嘉手納町 7,128千円] --&gt; B[委託料 7,128千円]     B --&gt; C["(株)環境設計国建 7,128千円"]     subgraph Note     D["嘉手納町防災システム基本計画策定委託業務"]     end     </pre>					
資金の流	評価	点検項目	評価に関する説明		
金の流 れ、 費 目・ 費 用	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者はプロポーザル方式により選択しており、妥当であると考え。		
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については、複数社から見積をもらい決定しており適正であると考えている。		
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途については、事業目的の観点から必要か等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。		
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。			

市町村名 嘉手納町

平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	7-③	嘉手納町地域防災計画整備事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(4)-イ
担当部課名	総務課	事業実施(予定)年度	平成29年度	災害に強い県土づくりと防災体制の強化
			沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-10-(2)

事業内容 災害時における町民及び来町者の安全確保を図るため、避難行動・避難誘導及び避難所設置運営等の方針となる地域防災計画を策定する。

効果発現年度  当年度  後年度(30年度)

実施方法  直接実施  委託  補助  負担  その他( )

		29年度	30年度	31年度	32年度	33年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	(a) 当初予算額	6,447	-	-	-	-
	(b) 予算現額	8,014	-	-	-	-
	(c) 増減額(b-a)	1,566	-	-	-	-
	(d) 繰越額	-	-	-	-	-
	A. 計(b+d)	8,014	-	-	-	-
	B. 執行済額	7,916	-	-	-	-
	うち交付金充当額	6,333	-	-	-	-
	次年度繰越額	-	-	-	-	-
	執行率(%) (B/A)	98.8%	-	-	-	-
	予算の状況の説明	嘉手納町内の防災・減災の強化の実現に向けて、地域防災計画の整備を行い、合わせて避難勧告等判断・伝達マニュアルを作成した。予算額と執行済み額の差額は、プロポーザルによるものである。				

活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)	達成状況			
		29年度	30年度	31年度	32年度
地域防災計画の整備及び避難勧告等判断・伝達マニュアルの作成	目標	( 防災計画整備・マニュアル作成 )	( - )	( - )	( - )
	実績	防災計画整備・マニュアル作成実施	-	-	-
基地災害における避難実施要領パターン作成の追加	目標	( 要領パターン追加作成 )	( )	( )	( )
	実績	要領パターン追加作成実施			
達成状況説明	当初計画していた事業及び追加の内容、地域防災計画の整備、避難勧告等判断・伝達マニュアルの作成・基地災害における避難実施要領パターンの作成はすべて実施し、嘉手納町の防災減災の強化が図られた。				

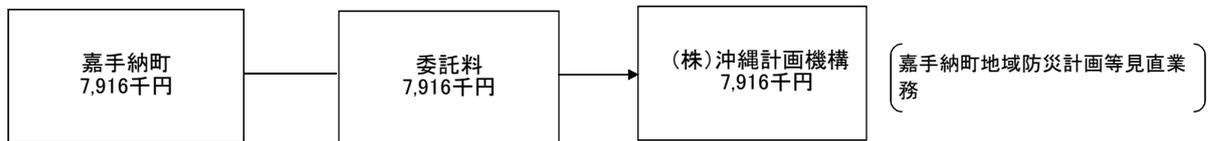
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)	基準値(年度)	29年度	30年度	31年度	目標値(30年度)
			地域防災計画の整備及び避難勧告等判断・伝達マニュアルの作成	目標	( )	( 防災計画整備・マニュアル作成 )
	実績		防災計画整備・マニュアル作成実施	-	-	
基地災害における避難実施要領パターン作成	目標	( )	( 要領パターン作成 )	( )	( )	( )
	実績		要領パターン作成実施			
【H30成果目標】 地域防災計画を活用した避難訓練(1回以上/年)を実施することで、防災知識の普及・啓発を行い、災害時における安全が確保されていると感じるか(80%以上)を含め、訓練参加者等を対象としたアンケート調査を行うことで、当該事業のあり方を検証する。	目標	( )	( )	( )	( )	( 80%以上 )
	実績					

進捗状況説明  
 ① 地域防災計画の整備、② 避難勧告等判断・伝達マニュアルの作成、③ 基地災害における避難実施要領パターンの作成を完了した。  
 【①地域防災計画整備内容】  
 国や県に合わせた修正や追加、本町独自の修正及び追加  
 【②避難勧告等判断・伝達マニュアル作成内容】  
 避難行動の原則と行動の考え方・風水害の避難勧告・地震津波災害の避難勧告・災害発生が予想される際の体制と情報分析・避難勧告等の情報伝達について整理し、マニュアル化した。  
 【③基地災害における避難実施要領パターンの作成】  
 米軍基地により想定される災害についても自然災害と同様に備え、住民への情報伝達・避難の方法・避難住民の誘導・実施に関するものを整理しパターン化した。

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	地域防災計画の策定は完了したが、災害時に町及び町民が計画通りの行動をとれるか疑義がある。	災害発生時においても町及び町民が地域防災計画で定めた通りの行動を行えるよう、防災計画の内容の周知や訓練が必要である。
<b>今後の取り組み方針</b>		
<p>本事業で策定した計画、マニュアル、避難実施要領パターンを活用し、町民参加による防災訓練を実施することで町民等への周知を図るとともに、担当者運用訓練や避難訓練による検証結果、今後の状況の変化や関係機関による研究等を踏まえ、必要に応じて適宜計画等の見直しを行う。</p>		

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
7,916	7,916	6,333	1,583	0



資金の流 れ、費 目・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者はプロポーザル方式により選択しており、妥当であるとする。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については、複数社から見積をもらい決定しており適正であると考えている。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途については、事業目的の観点から必要か等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	